

**fiery Spark**

Fiery Spark Professional  
PS ソフトリップ PRO

v2.5

**カラーガイド**

LP-8800C 対応





Copyright 2004 年 Electronics for Imaging, Inc.  
All rights reserved.

本書は著作権により保護されており、著作権に関わる全ての権利が留保されています。Electronics for Imaging, Inc. の書面による承諾がない場合は、本書で許可が明示してある場合を除き、目的、手段を問わず本書のいかなる部分も、その複写や伝達を禁じます。本書の内容は予告なしに変更することがあります。また、Electronics for Imaging, Inc. はその内容についての責任を表明するものではありません。

本書で説明するソフトウェアは使用許可にもとづいて提供され、使用許可条件に従って使用または複製する場合に限り許可されるものとします。

Patents: 4,917,488, 4,941,038, 5,109,241, 5,150,454, 5,150,454, 5,170,182, 5,212,546, 5,278,599, 5,335,040, 5,343,311, 5,424,754, 5,467,446, 5,506,946, 5,517,334, 5,537,516, 5,543,940, 5,553,200, 5,565,960, 5,615,314, 5,619,624, 5,625,712, 5,640,228, 5,666,436, 5,760,913, 5,818,645, 5,835,788, 5,866,856, 5,867,179, 5,959,867, 5,970,174, 5,995,724, 6,002,795, 6,025,922, 6,041,200, 6,046,420, 6,065,041, 6,067,080, 6,112,665, 6,116,707, 6,118,205, 6,122,407, 6,134,018, 6,141,120, 6,151,014, 6,166,821, 6,184,873, 6,185,335, 6,201,614, 6,215,562, 6,219,659, 6,222,641, 6,224,048, 6,225,974, 6,226,419, 6,239,895, 6,256,108, 6,265,676, 6,266,051, 6,269,190, 6,289,122, 6,292,177, 6,292,270, 6,300,580, 6,310,697, 6,323,893, 6,326,565, 6,327,047, 6,327,050, 6,327,052, 6,330,071, 6,331,899, 6,335,723, 6,340,975, 6,341,017, 6,341,018, 6,341,307, 6,348,978, 6,356,359, 6,369,895, 6,373,003, 6,381,036, 6,400,443, 6,414,673, 6,424,340, 6,429,949, 6,449,393, 6,456,280, 6,476,927, 6,490,696, 6,501,461, 6,501,565, 6,519,053, D341,131, D406,117, D416,550, D417,864, D419,185, D426,206, D430,206, D439,851, D444,793, RE33,973, RE36,947

## 商標

Bestcolor, ColorWise, EDOX, EFI, Fiery, Fiery ロゴ, Fiery Driven, Rip-While-Print, Spot-On は、米国特許商標庁および / またはその他諸国における Electronics for Imaging, Inc. の登録商標です。

AutoCal, AutoGray, Best, Best ロゴ, Changing the Way the World Prints, ColorCal, Command WorkStation, Device IQ, DocBuilder, DocBuilder Pro, DocStream, EFI ロゴ, EFICOLOR, EFI Color Profiler, EFI Production System, EFI ScanBuilder, Everywhere YouGo, Fiery Driven ロゴ, Fiery X2, Fiery X2e, Fiery X2-W, Fiery X3e, Fiery X4, Fiery ZX, Fiery Z4, Fiery Z5, Fiery Z9, Fiery Z16, Fiery Z18, Fiery Document WorkStation, Fiery Downloader, Fiery Driver, Fiery FreeForm, Fiery Link, Fiery Prints, Fiery Print Calibrator, Fiery Production System, Fiery Scan, Fiery ScanBuilder, Fiery Spark, Fiery Spooler, Fiery WebInstaller, Fiery WebScan, Fiery WebSpooler, Fiery WebStatus, Fiery WebTools, Intelligent Device management ロゴ, Memory Multiplier, NetWise, PrintMe, PrintMe ロゴ, PrintMe Enterprise, PrintMe Networks, RIPChips, ScanBuilder, Splash, Splash ロゴ, Unimobile, Unimobile ロゴ, Velocity, Velocity Balance, Velocity Build, Velocity Design, Velocity Estimate, Velocity Exchange, Velocity OneFlow, Velocity OneFlow ロゴ, Velocity Scan, VisualCal は、Electronics for Imaging, Inc. の商標です。

Adobe, Adobe ロゴ, Adobe Illustrator, PostScript, Adobe Photoshop, Adobe PageMaker は Adobe Systems Incorporated の商標であり、一部管轄地域では登録されています。Apple, Apple ロゴ, AppleShare, AppleTalk, EtherTalk, LaserWriter, Macintosh は Apple Computer, Inc. の登録商標です。Microsoft, MS, MS-DOS, Windows は米国およびその他諸国における Microsoft の登録商標です。その他の用語や製品名は各社の商標や登録商標である場合があります、本書により承諾されています。

## 法律上の注意

ソフトウェアまたはユーザマニュアルに表示される PANTONE<sup>®</sup> カラーは、Pantone, Inc (以下 Pantone 社) が定義するカラーと一致しないことがあります。正確なカラーを確認するには、最新の PANTONE カラー出版物を参照してください。PANTONE<sup>®</sup> およびその他 Pantone 社の商標は Pantone 社の所有物です。©Pantone, Inc., 2003

Pantone 社は、Electronics for Imaging, Inc. の製品またはソフトウェアと併用する場合のみ Electronics for Imaging, Inc. に認可するカラーデータおよび / またはソフトウェアの著作権所有者です。Electronics for Imaging, Inc. の製品またはソフトウェアを配付する場合を除いて、PANTONE カラーデータおよび / またはソフトウェアを他のディスクまたはメモリにコピーすることは禁止されています。

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) により開発されたソフトウェアが組み込まれています。

## 限定権利条項 (米国においてのみ適用)

防衛機関の場合：限定権利条項。使用、複写、開示は 252.227.7013 の技術データとコンピュータソフトウェアの条文の補助条項 (c) (1) (ii) に規定した限定内容に従うものとします。

民間機関の場合：限定権利条項。使用、複写、開示は 52.227-19 の商業コンピュータソフトウェア限定権利の条文の補助条項 (a) から (d) に規定した限定内容、および本ソフトウェアに関する Electronics for Imaging, Inc. の基準商業契約に規定した限定内容に従うものとします。文書に記載されていない権利は、合衆国の著作権法にもとづいて留保します。

アメリカ合衆国印刷  
再生紙印刷

Part Number : 45040546

## ソフトウェア使用許諾契約

本ソフトウェアをご使用になる前に必ず以下の使用許諾契約をお読みください。本ソフトウェアをご使用になった場合は、本使用許諾のすべての条項に従うべき義務を負うことになります。これらの条項の受諾あるいは同意ができない場合は、10日以内にお買上げ販売店に本製品とその全梱物を返却して全額払戻しを受けることができます。

Electronics for Imaging, Inc. は、お買上げいただいた Fiery Spark Professional PS ソフトリップ PRO(以下 Fiery Spark Pro)に同梱されている Adobe Systems Incorporated の PostScript<sup>®</sup> ソフトウェアなどのソフトウェアおよび付属の文書(以上まとめて「ソフトウェア」という)について、以下の条項に基づいて非独占的、譲渡不可の使用を認めます。

以下の内容がお客様に認められています。

- a. 本ソフトウェアは、お客様自身の日常業務のため、並びに Fiery Spark Pro においてのみ使用できます。
- b. お客様自身の日常業務においてのみ、EFI Fiery<sup>®</sup> に同梱の特別なコードフォーマット(以下「コード化フォントプログラム」という)によりデジタルコード化された機械語によるアウトラインプログラムとビットマッププログラム(以下「フォントプログラム」という)を使用して、文字、数字、記号(以下「書体」という)の設計、書体、ウェイト、バージョンを再生表示できます。
- c. ソフトウェアから再生されるコード化フォントプログラムと書体を表示するために、Electronics for Imaging, Inc. の商標(以下「商標」という)を使用できます。
- d. 承継人が本使用許諾の全ての条項に従うことに合意するかぎり、本使用許諾に基づくお客様の Fiery Spark Pro に関する全権利を承継人に譲渡することができます。

以下の内容はお客様には認められていません。

- a. プリント解像度 600 dpi 以上で直接または間接的なあらゆるコピーの作成をするため、あるいは Fiery Spark Pro 以外で使用するためにフォントや書体を生成する目的でソフトウェアを利用すること。
- b. お買上げいただいた Fiery Spark Pro ユニットの使用に必要な場合を除き、ソフトウェア、コード化フォントプログラム、付属の文書、あるいはそれらの一部の直接または間接的なあらゆるコピーを作成すること、あるいはそれを許可すること。ただし、Fiery Spark Pro のハードディスクドライブに組み込まれたソフトウェアの特定箇所については、全体一部を問わず、直接または間接的なあらゆるコピーの作成を行うこと、あるいはそれを許可することはいかなる場合も認められません。その文書のコピーを作成することも認められません。
- c. ソフトウェア、コード化フォントプログラム、あるいは付属の文書を変更、逆アセンブル、解読、あるいはリバースエンジニアリングすること。
- d. ソフトウェアをレンタル、あるいはリースすること。

## 所有権

ソフトウェア、コード化フォントプログラム、書体、商標、付属の文書については、Electronics for Imaging, Inc. とその供給元が持つものとし権利やその他知的所有権は Electronics for Imaging, Inc. とその供給元が保有します。上記で認められた権利を除いて、本使用許諾ではソフトウェア、コード化フォントプログラム、書体、商標、付属の文書に関する特許権、著作権、営業秘密、(登録、未登録を問わず)商標、その他権利、フランチャイズ、ライセンスを認めません。Electronics for Imaging, Inc. あるいはその供給元の商標や商号と類似した、あるいは混同を生じさせるような商標や商号を創作したり使用すること、あるいは Electronics for Imaging, Inc. やその供給元の商標権を損なうような行為をすることを禁じます。商標はコード化フォントプログラムのプリント出力を識別する目的にだけ使用できます。Electronics for Imaging, Inc. から妥当と考えられる要求があった場合、お客様は商標で識別された書体の見本を提供するものとします。

## 守秘義務

お客様は、ソフトウェアとコード化フォントプログラムの秘密を守り、ソフトウェアとコード化フォントプログラムを使用する必要があると本使用許諾で認められたお客様だけにソフトウェアとコード化フォントプログラムを開示するものとします。またお客様は第三者に対する開示を防ぐため、妥当と考えられる全ての予防措置を講ずるものとします。

## 救償

ソフトウェア、コード化フォントプログラム、書体、商標、付属の文書を許可なしで使用、コピー、開示すると、本使用許可是自動的に中止され、Electronics for Imaging, Inc. に対しては他の法律上の救済が適用可能となります。

## 限定保証

本ソフトウェアがお客様に頒布されてから 90 日間は、通常の使用形態の下では本ソフトウェアは使用不可能になるほどの致命的な異常なしに動作することを Electronics for Imaging, Inc. は保証します。この保証の下で Electronics for Imaging, Inc. の責任およびお客様に対する救済を行使するため（お客様が Fiery Spark Pro を Electronics for Imaging, Inc. または Electronics for Imaging, Inc. の正規の代理店に返却することを前提として）Electronics for Imaging, Inc. の選択により、異常を回復または正常化を目指して妥当と考えられる商業的努力を尽くすか、本ソフトウェアを同等の機能を有するソフトウェアと交換するか、あるいはお客様が製品に支払った代価を払い戻し本使用許諾を中止させます。米国の州によっては黙示的保証の期間に関する限定を認めない所があり、その場合は上記の限定は適用されません。

上記の明示的限定保証を除き、製品について明示的、黙示的、あるいは法令にもとづく保証または条件をも Electronics for Imaging, Inc. は設定せず、かつお客様はそれを受けることができません。特に特定目的に関する商品性や適合性について、いかなる黙示的保証や条件も放棄します。

保証サービスについては正規のサービス店またはサポートセンターにお問い合わせください。

上記の明示的限定保証を除き、ソフトウェア、コード化フォントプログラムについて、明示的、黙示的、法令または本使用許諾によって定められたいかなる条項、あるいはお客様との話し合いにもとづく保証または条件をも Electronics for Imaging, Inc. は設定せず、かつお客様はそれを受けることができません。特に特定目的に関する商品性や適合性について、いかなる黙示的保証や条件も放棄します。Electronics for Imaging, Inc. はソフトウェアが停止せずに動作すること、異常が存在しないこと、あるいはソフトウェアがお客様の特定の要件に適合することについては、これを保証しません。

## 限定責任

ソフトウェア、コード化フォントプログラム、付属の文書の使用によって引き起こされるデータ損失、利益損失、回復費用、その他特別な、付随的、結果的、あるいは間接的損害をはじめとするあらゆる損害について、それがどのような事由によって引き起こされたものであり、あるいはどのような事由に基づいていようと Electronics for Imaging, Inc. またはその供給元は責任を負いません。この限定条項は Electronics for Imaging, Inc. やすべての正規販売店が、そのような損害の可能性を知らされていた場合にも適用されます。Fiery Spark Pro の価格はこのリスク配分を反映したものであることに同意するものとします。但し、米国の州や司法管轄区域によっては結果的、あるいは付随的責任の適用除外や限定を認めない所があり、その場合は上記の限定は適用されないことがあります。

## 輸出管理

お客様はいかなる形態であれ、アメリカ合衆国と当該国政府の許可なしにソフトウェアやコード化フォントプログラムを輸出、再輸出しないことに同意するものとします。本条項に従わない場合は、本使用許諾の実質的な違反となります。

## 政府による使用

アメリカ合衆国政府による使用、複製、開示は、FAR 12.212 あるいは DFARS 227.7202-3-227.7202-4 に定める限定内容、および米国連邦法に必要とされる範囲において FAR 52.227-14、限定付権利 (June 1987) Alternate III(g)(3)(June 1987) または FAR 52.227-19 (June 1987) に定める最低限の限定権利に従うことを条件とします。本使用許諾に従って提供される技術データの範囲において、技術データは FAR 12.211 および DFARS 227.7102-2 によって保護されており、またアメリカ合衆国政府によって明確に必要とされる範囲で、技術データは DFARS 252.227.7015 (November 1995) および DFARS 252.227-7037 (September 1999) に定める限定権利に従うことを条件とします。前述の規定が修正または優先される場合、それと同等の規定が適用されるものとします。契約者名は Electronics for Imaging, Inc. です。

## 第三者受益者

カリフォルニア法人 Adobe Systems Incorporated (以下 Adobe 社) (住所: 345 Park Avenue, San Jose, California 94110-2704) は、本使用許諾によって使用許諾が得られるフォント、コード化フォントプログラム、書体、商標などのユーザ使用に関して本使用許諾に規定される条項の範囲で、本使用許諾における第三者受益者であることをここに通知します。以上の条項は Adobe 社の利益のために明示的に設定されたものであり、Electronics for Imaging, Inc. に加え Adobe 社がこれを行行使うことができます。

#### 一般条項

本使用許諾はカリフォルニア州法に準拠します。

本使用許諾はお客様と Electronics for Imaging, Inc. との全面的合意を表したものであり、本ソフトウェア、コード化フォントプログラム、付属の文書に関するその他の通知や広告に代わるものとします。

本使用許諾の一部の条項が無効になった場合でも、本使用許諾のそれ以外の部分は効力を有します。

お問い合わせの場合は、下記の住所まで書面にてご連絡ください。

Electronics for Imaging  
303 Velocity Way  
Foster City, CA 94404

# 目次

## はじめに

本書について	xi
ColorWise の主機能	xii
本書で使用する約束事について	xiii

## 第 1 章 : Fiery Spark Pro カラーの管理

Fiery Spark Pro カラー管理オプション	1-1
ColorWise オプションの詳細	1-3
CMYK シミュレーションプロファイル	1-3
CMYK シミュレーション方法	1-5
RGB ソースプロファイル	1-5
RGB 色分解	1-7
明るさ	1-7
色分解の組合せ	1-8
カラーの表現	1-8
出力プロファイル	1-10
スポットカラーマッチング	1-10
テキストと画像に純ブラック使用	1-11
用紙シミュレーション	1-13
プリンタドライバとプリントオプション	1-13
プリンタドライバの役割	1-13
Windows 用 PostScript プリンタドライバ	1-14
Mac OS 用 Adobe PostScript プリンタドライバ	1-16

## 第 2 章 : カラーキャリブレーション

キャリブレーションとは	2-1
キャリブレーションの適用	2-2
キャリブレーションの動作原理	2-2
キャリブレーションのスケジューリング	2-3
キャリブレーション状況の確認	2-4

---

Fiery ColorWise Pro Tools 使用のキャリブレーション	2-5
エキスパートモード	2-6
デフォルトキャリブレーション測定値への復帰	2-8
EFI Spectrometer 使用のキャリブレーション	2-9
X-Rite DTP32 使用のキャリブレーション	2-13
X-Rite DTP41 使用のキャリブレーション	2-15

## 第 3 章 : Fiery ColorWise Pro Tools

---

Color Editor	3-2
プロファイルの編集	3-2
編集後のシミュレーションプロファイルを元に戻すには	3-9
編集済みプロファイルの確認	3-9
Profile Manager	3-10
デフォルトプロファイル設定	3-10
プロファイルのダウンロード	3-13
プロファイルの編集	3-14
プロファイルの管理	3-15
カスタムプロファイルの関連づけ	3-16
Spot-On	3-18
Spot-On の起動	3-18
Spot-On の使用	3-19
既存カラーの編集	3-20
カスタムカラーの作成	3-21
カスタムカラーグループのダウンロード	3-22
カスタムカラーグループのアップロード	3-23
カラー値の編集	3-23
ターゲットカラー測定用計器の使用	3-27
変更の保存と Spot-On の終了	3-28
Color Setup	3-29
ColorWise オプションのデフォルト設定	3-29

## 付録 A : カラー測定計器

---

EFI Spectrometer の使用	A-1
EFI Spectrometer の設定	A-1
<hr/>	
X-Rite DTP32 の使用	A-2
X-Rite DTP32 の設定	A-2
X-Rite DTP32 の調整	A-5
<hr/>	
X-Rite DTP41 の使用	A-6
X-Rite DTP41 の設定	A-6
X-Rite DTP41 の調整	A-8

## 付録 B : 測定値の取り込み

---

シンプル ASCII インポートファイルフォーマット (SAIFF)	B-1
EFI 34 パッチページの 1D Status T 濃度の例	B-2
EFI 21 パッチページの 1D Status T 濃度の例	B-2
そのほかのページの 1D Status T 濃度の例	B-3

## 索引



# はじめに

本書では、Fiery Spark Professional PS ソフトリップ PRO へカラー出力するために必要な ColorWise プリントオプション、キャリブレーション、および Fiery ColorWise Pro Tools 機能に関する情報を提供します。

本書は Fiery Spark Professional PS ソフトリップ PRO 取扱説明書の一部です。取扱説明書にはユーザおよびシステム管理者用の説明が含まれています。これらの説明書をいつも用意しておき、詳細は各説明書を参照してください。

注意：以後、本書では、Fiery Spark Professional PS ソフトリップ PRO を「Fiery Spark Pro」と称します。

注意：本書では Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、Windows 2000、Windows XP を総称して「Windows」と表記します。

## 本書について

本書は、Fiery Spark Pro を利用して優れたカラー出力を行うための以下の情報を提供します。

- 第1章:Fiery Spark Proカラー管理オプション - 出力カラーに影響を及ぼすプリントオプションについて説明します。
- 第2章:カラーキャリブレーション - ColorWise Pro Tools™Calibrator™ 使用のキャリブレーションの方法を説明します。
- 第3章:Fiery ColorWise Pro Tools - Calibrator 以外の Fiery ColorWise Pro Tools 機能の使用法( Color Editor™ によるプロファイルの変更、Profile Manager™ によるカラープロファイルの管理、Spot-On™ によるスポットカラーの定義、Color Setup™ による ColorWise オプションの設定 ) を説明します。

- 付録 A: カラー測定計器 - Fiery ColorWise Pro Tools によるキャリブレーションで使用するカラー測定器について説明します。
- 付録 B: 測定値の取り込み - 濃度測定値の取込みに利用できる SAIFF ファイルについて説明します。

また、本書記載の「プロファイル」や「スポットカラー」などカラー専門用語には「\*」が付いています。これら「\*」付き用語に関する詳細は、『Fiery カラーリファレンス』巻末の用語集を参照してください。

## ColorWise の主機能

ColorWise は、Fiery Spark Pro 内蔵のカラー管理システムです。初心者および熟練者両方のニーズに対応し、あらゆるジョブで優れたカラー出力を得られる、柔軟なシステムです。デフォルト設定のままでも、Windows や Mac OS 上のほとんどのアプリケーションから、適切にカラー出力を行います。Fiery Spark Pro の操作に慣れていない方でも、良質のカラーを出力できます。

Fiery Spark Pro から常に一貫した出力を得られるようにするには、定期的に Fiery Spark Pro のキャリブレーションを行う必要があります。Fiery ColorWise Pro Tools では Calibrator と分光測色計、濃度計、プリンタ内蔵スキャナなどのさまざまなカラー測定デバイスを使用し簡単にキャリブレーションを行うことができます（第 2 章参照）。

ColorWise はより良い出力結果を得るためのさまざまな機能を提供しています。

- DIC\*、Euroscale\*、SWOP\* などのオフセット印刷標準カラーを CMYK カラーでシミュレートすることができます。
- PANTONE などのスポットカラー \* を実際の PANTONE を使用したオフセット印刷に近いカラーで出力できます。
- 「カラーの表現 \*」の設定で、ビジネスグラフィックに適した鮮やかなカラー出力、写真など連続調画像に適したグラデーションの滑らかな出力、絶対カラーメトリックでの出力など、用途に応じて、RGB カラーの出力を変えることができます。
- RGB カラーデータのソース情報を定義することにより、モニタでより正確にカラーを表示し、ソースの情報がなくても適切にカラー変換を行えます。

- RGB データを変換する際、プリンタの色の範囲に合わせたり、他のプリントデバイスの色の範囲に合わせるすることができます。実際に他のプリントデバイスに接続し出力しなくても、さまざまなプリントデバイスからの出力結果を比較できるので便利です。またさまざまな出力条件で、RGB データがどのように出力されるかを比較することもできます。

ColorWise カラー管理は、ユーザがニーズに合わせて柔軟に使用できるように設計されています。また、カラー印刷業界標準の ICC プロファイルに対応しています。ICC プロファイルを Fiery Spark Pro にダウンロードすると、オフセット印刷やプリンタからの出力をシミュレーションできます。特定のモニタやスキャナのカラーに合わせて出力することもできます。また、プリンタ用に ICC プロファイルをカスタマイズすることもできます。

## 本書で使用する約束事について

- 画面表示のサーバ名は、「Aero」と表記します。
- Fiery Spark Pro の取扱説明書名は『 』内に表示されます。
- サブフォルダの表記方法

たとえば「フォルダ 1」フォルダ内の「フォルダ 2」フォルダ内の「フォルダ 3」フォルダを開く場合、

「フォルダ 1: フォルダ 2: フォルダ 3 」フォルダを開きます。

と表記します。



# 第 1 章 :

## Fiery Spark Pro カラーの管理

本章では、ColorWise カラー管理システムにおける設定方法と、ジョブに合わせた設定の変更方法について説明します。また、PostScript\* レベル 2 および PostScript 3 対応プリンタドライバの役割、Windows と Mac OS 用プリンタドライバを使用したカラー管理についても説明します。

## Fiery Spark Pro カラー管理オプション

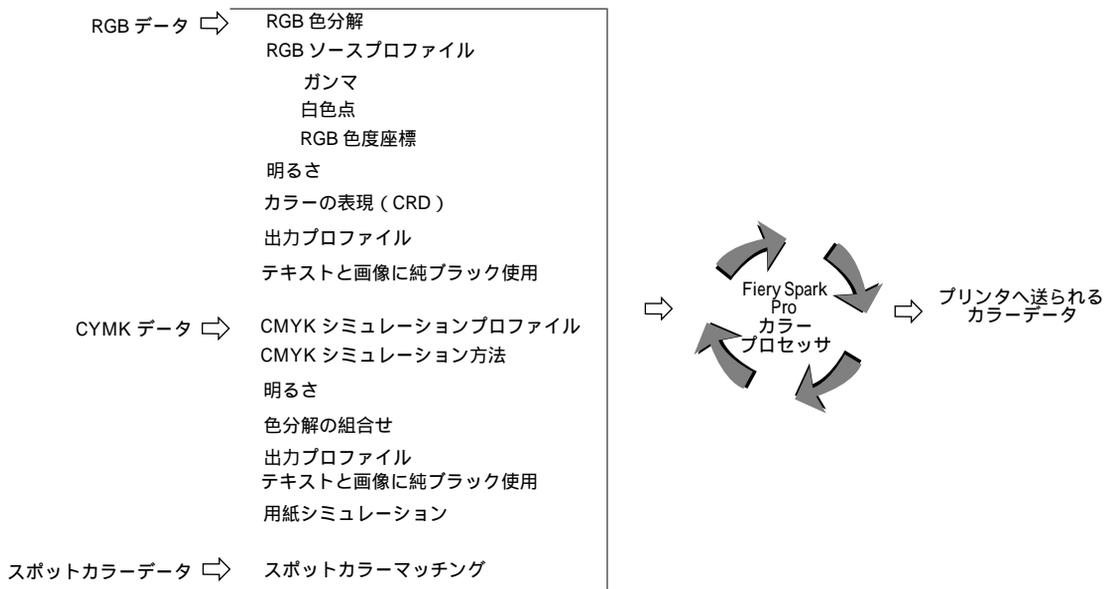
Fiery Spark Pro の出力するカラーを次の方法で管理できます。

- プリンタドライバのメニューから、ジョブごとにColorWiseオプションの設定を選択できます。
- Fiery ColorWise Pro ToolsのColor Setupで、ほとんどのColorWiseの設定をサーバのデフォルトとして指定できます(第3章参照)。製品出荷時のデフォルト値に関する詳細は、『設定管理ガイド』および『印刷ガイド』の「付録 A」を参照してください。デフォルトの設定は、書き換ええない限りすべての印刷ジョブに有効です。
- CMYK シミュレーションプロファイルのデフォルト、シミュレーション方法、RGB ソースプロファイルのデフォルト、RGB 色分解、キャリブレーションセットなどを、Fiery ColorWise Pro Tools の Calibrator、Color Editor、Profile Manager で設定できます。

アプリケーションは、さまざまな色空間 \* のデータを Fiery Spark Pro に送ります。オフィスアプリケーションは、通常 RGB のデータを作成します。デザイン関係のアプリケーションでは、CMYK データを使用するのが一般的で、PANTONE などのスポットカラーを含むデータもよく使われます。ところが色空間はアプリケーションによって決まるのではなく、同一ファイルの同一ページ上に、RGB、CMYK、スポットカラーが混在する場合があります。Fiery Spark Pro では、さまざまな色空間の混在したファイルを出力する際に、ユーザがそれぞれの色空間の出力を制御することを可能にします。

Fiery Spark Pro は、プリンタへ送られる CMYK カラーデータを生成します。プリントデバイスによっては、このデータが出力される前にさらに変換される場合もあります。

下図は、Fiery Spark Pro カラー管理システムのカラーデータ変換プロセスを表しています。カラー管理は、印刷ジョブを Fiery Spark Pro に送信する際にプリントオプションを設定することで制御します。プリントオプションとその設定内容については、以下で説明します。



RGB カラーデータのみ作用するカラーオプションは、「RGB ソースプロファイル」のみとなります。その他のオプションは、Lab、XYZ などあまり一般的でない色空間のカラーデータにも影響します。

注意： PostScript 3 では、ソース色空間が RGB である場合、「RGB ソースプロファイル」の設定が、すべての CIEABC 空間のカラーに適用されます。また、Adobe Photoshop のポストスクリプトカラー管理を利用して、CIE DEFG 形式の CMYK データを Fiery Spark Pro に送った場合、通常 RGB データのみに適用される Fiery Spark Pro の「カラーの表現」の設定が、CMYK のデータにも適用されます。

ColorWise オプションのほとんどは、Fiery ColorWise Pro Tools の Color Setup でデフォルト値を設定できます。また、それらは Fiery Spark Pro にジョブを送る際に、プリントオプションで上書きできます。製品出荷時のプリンタの初期設定値の詳細については、『設定管理ガイド』および『印刷ガイド』の「付録 A」を参照してください。

## ColorWise オプションの詳細

次に ColorWise オプションの詳細を記述します。

### CMYK シミュレーションプロファイル

「CMYK シミュレーションプロファイル \*」オプションは、Fiery Spark Pro でオフセット印刷の校正出力、または他のプリントデバイスのシミュレーションを行う場合に指定します。CMYK データがどの印刷標準または他のプリントデバイス用に色分解されたかにより、「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションで選択すべきプロファイルが異なります。このオプションは CMYK データのみに適用されます。

- DIC - 大日本インキ化学工業株式会社の印刷標準に近い色空間を定義します。DIC 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- Euroscale - ヨーロッパの印刷標準に近い色空間を定義します。Euroscale 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- Japan Color - 日本印刷学会標準化委員会の印刷標準に近い色空間を定義します。Japan Color 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- SWOP-Coated - 米国の印刷標準に近い色空間を定義します。SWOP-Coated 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。

- TOYO-Coated - 東洋インキ製造株式会社の印刷標準に近い色空間を定義します。TOYO-Coated 用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- シミュレーション-1 ~シミュレーション-10 - カスタムシミュレーションに使用します。たとえば、ICC プロファイルなどのカスタム色分解で変換した画像には、Fiery Spark Pro 上の対応するプロファイルを選択します。

注意：ICC プロファイルを使用して色分解された画像を適切にシミュレートするには、Fiery Spark Pro に同一のプロファイルをダウンロードする必要があります。プロファイルのダウンロードの手順は、3-13 頁「プロファイルのダウンロード」を参照してください。

Windows 用 PostScript ドライバでは、「双方向通信」が選択してある場合、「CMYK シミュレーションプロファイル」のメニュー欄に、Fiery Spark Pro にダウンロードされている各カスタムプロファイル名が表示されます。Mac OS 用 Adobe PostScript ドライバでは、カスタムプロファイルは「シミュレーション-1」~「シミュレーション-10」と表示されます。

Windows 用 PostScript ドライバでは、Fiery ColorWise Pro Tools で作成したシミュレーション用のカスタムシミュレーションプロファイルをすべて表示することができます。Mac OS 用ドライバでは、シミュレーション用のカスタムシミュレーションプロファイルを各々10まで表示することができます。カスタムシミュレーションの数は、Fiery Spark Pro の HDD の空き容量によっても制限されます。

- なし - シミュレーションは適用されません。キャリブレーションは適用されます（反映されます）。
- 複写機の最良値 - 他のプリントデバイスのシミュレーションは適用されません。Fiery Spark Pro のキャリブレーションも適用されません。

## CMYK シミュレーション方法

「CMYK シミュレーションプロファイル」で「なし」または「複写機の最良値」以外を選択した場合のシミュレーション方法を指定します。

- クイック - CMYKそれぞれに1種類のトランスファー曲線が適用され、出力濃度のみが調整されます。
- フル(ソース GCR) - 各カラーの出力濃度に加え色相調整用のカラーメトリック変換も行われるため、より正確なシミュレーションが適用されます。また、「CMYK シミュレーションプロファイル」指定のブラックインクの情報を利用されます。ここで指定したプリントデバイス用のカラー校正を印刷する場合に、この項目を選択します。

「フル(ソース GCR)」ではブラックカラーが別に調整され出力されます。スキャンまたは Adobe Photoshop などのアプリケーションでブラック生成 UCR\* / GCR) を使用し色分解されたデータ用に選択してください。

- フル(出力 GCR) - 「フル(ソース GCR)」と同様のシミュレーション方法が適用されます。このオプション項目では、「出力プロファイル」指定のブラックインクの情報を利用されます。Fiery Spark Pro で最終出力する場合にこの項目を選択します。

「フル(出力 GCR)」では、K 版がいったん CMY 版に組み込まれた後、出力プロファイルにより CMYK に分版されるため、CMY と K の比率は保持されません。ブラックのテキストとグラフィックは CMYK4 色を使った合成ブラックで出力されます。この方法では、ColorSync など ICC プロファイルを用いた一般的なカラーマッチングとの互換性が高くなります。

## RGB ソースプロファイル

「RGB ソースプロファイル \*」オプションは、書類内の RGB データのソース色空間を定義する際に使用します。ここで指定する設定は、他のカラー管理システムで指定したソース色空間のプロファイルを書き換えます。一般的に使用されるモニタ色空間のファイルは、ドライバや Fiery ColorWise Pro Tools の Profile Manager に入っています。スキャナのプロファイルなど特定色空間を使用する場合は、Fiery ColorWise Pro Tools の Profile Manager を使用してダウンロードしてください。

「RGB ソースプロファイル」オプションで「なし」以外を選択すると、Fiery Spark Pro で RGB データの処理をコントロールできます。この場合 Fiery Spark Pro は、データに設定されたソース色空間の定義や、アプリケーションやドライバのカラー管理システムのプロファイルを書き換えます。たとえば、Mac OS の ColorSync システム特性での設定は、「RGB ソースプロファイル」設定で書き換えられます。他の場所で指定したソース色空間を書き換えたくない場合は、ここで「なし」を選択してください。

以下に、Fiery Spark Pro の RGB ソース色空間について説明します。

- EFIRGB - EFI 定義の色空間です。ファイルに RGB データの詳細な情報がない場合に最適です。
- sRGB ( PC ) - Windows 対応モニタ用のソース色空間を指定します。
- Apple 標準 - Mac OS 対応モニタ用のソース色空間を指定します。
- カスタム - RGB ソースプロファイル用の値 ( 「ガンマ \* 」, 「 RGB 色度座標 \* 」 および 「 白色点 \* 」 オプション ) を個別に指定できます。
- ソース-1 ~ ソース-10 - Fiery Spark Pro にダウンロードされている RGB プロファイルのソース色空間を指定します ( RGB ソースプロファイルのダウンロードについては、「第 3 章 : Fiery ColorWise Pro Tools 」を参照してください ) 。

Windows 用 PostScript ドライバで「双方向通信」が選択されている場合、各プロファイル名のメニュー欄に、Fiery Spark Pro にダウンロードされている各カスタムプロファイル名が表示されます。Mac OS 用 Adobe PostScript ドライバでは、カスタムプロファイルは「ソース-1」~「ソース-10」と表示されます。

- なし - アプリケーションなどで指定したソース色空間を書き換えたくない場合に選択します。

この場合ファイルの種類によって出力カラーが微妙に異なります。たとえば、RGB EPS と RGB TIFF に対して、Fiery Spark Pro カラー管理システムは異なる変換方法を適用します。

- ソース色空間情報を含む PostScript RGB データ ( RGB EPS ) には、「カラーの表現」オプションでの指定 ( 1-8 頁参照 ) に基づくカラー変換が適用されます。
- 非 PostScript RGB データ ( RGB TIFF ) およびソース色空間情報のない PostScript RGB データ ( RGB EPS ) には、通常の UCR/BG ( Under Color Removal/Black Generation ) 変換が適用されます。

## RGB 色分解

このオプションは RGB データを、シミュレーション用の CMYK またはプリンタ用の CMYK のどちらの CMYK 色空間に分解するかを指定します。

「出力」または「シミュレーション」を指定します。「出力」は、RGB データをプリンタの色空間に変換します。「シミュレーション」は、オフセット印刷機など別のプリントデバイスの色空間のシミュレーションを行います。たとえば、高質な ICC プロファイルで出力できるプリントデバイスがある場合、そのプリントデバイスをシミュレートした出力を Fiery Spark Pro から得られます。

RGB 色分解機能は、特にオフセット印刷するジョブの校正出力で重宝します。RGB データを実際に CMYK に変換する前に、複数のプロファイルで出力して結果を比べることにより、最良の方法で CMYK へ変換することが可能になります。

注意：「RGB 色分解」オプションは、「出力プロファイル」または「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションと併用してください。

- 出力 - 「出力プロファイル」オプションで「プリンタの初期設定」が選択されている場合は、RGB データはプリンタの CMYK 色空間に変換されます。「出力 - 1」～「出力 - 10」が選択されている場合は、プリンタ用出力プロファイルを編集し作成された CMYK 色空間に変換されます。
- シミュレーション - RGB データは、「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションで選択されている CMYK シミュレーションプロファイルによる処理と、出力プロファイルによる処理によって CMYK 色空間に変換されます。

## 明るさ

全カラーデータに適用する明るさを指定します。

## 色分解の組合せ

一部のアプリケーションで作成した色分解データを、このオプションを使用し組み合わせるかどうかを指定します。この機能を使用すると、色分解フィルムを使ったプレス印刷の試し刷りができます。これにより、オーバープリントやトラッピング、その他の色刷り印刷の効果を、色分解フィルムの作成前に確認し校正することができます。また、低解像度のマスターファイルを印刷するかわりに、デスクトップカラーセパレーション (DCS) 形式ファイルを組み合わせ、フル解像度の印刷ができます。

このオプションは、QuarkXPress や Adobe PageMaker などサポートされています。このオプションでの設定を有効にするには、ジョブ印刷時にアプリケーションで、コンポジットではなく色分解、または DCS 形式の印刷を指定する必要があります。

注意： Adobe Photoshop で分版出力したジョブは、色分解の組合せを「オン」に設定して印刷しても、分版合成で出力することができません。

## カラーの表現

「カラーの表現 \*」オプションでは、カラー変換に使用するレンダリング方法 (CRD) を指定します。Fiery Spark Pro ソフトウェアは、印刷業界標準の ICC プロファイルに対応した 4 つのカラーの表現を提供しています。各々のカラーの表現は用途別に設計されていて、それぞれ色の範囲のマッピング方法が異なります。次に各レンダリング方法とその適切な使用方法を説明します。

Fiery Spark Pro カラーの表現 (CRD)	内容	用途	対応する ICC レンダリング 方法
連続調 *	画像の正確な色よりも色調関係の保持を優先させます。プリンタの範囲外のカラーの出力は通常「ビジネスグラフィック」に比べて彩度の低いものになります。	連続階調の写真画像 (スキャン画像やフォト CD 画像を含む)。	「イメージ」、 「コントラスト」

Fiery Spark Pro カラーの表現 (CRD)	内容	用途	対応する ICC レンダリング 方法
ビジネス グラフィック*	鮮やかな彩度の高いカラーを作成します。このカラーの表現は出力カラーとモニタ表示カラーを正確にマッチさせようとはしませんが、鮮やかな濃度の高いカラーを提供します。同時に、連続階調の写真画像に対しては、「連続調」と同じ方法でマッピングします。	プレゼンテーション資料用のアートワークやグラフ。同じページに写真画像が混在していてもかまいません。	「鮮やかさ」、 「グラフィック」
相対カラー メトリック	RGB ソースプロファイルで定義された白色点値とは異なる相対的な白色点を使用します。たとえば、モニタ上の青みがかかった灰色は、灰色で出力されます。裁ち切りしないジョブを出力する際、縁がハッキリするのを防ぐことができます。	モニタ表示カラーを正確に出力したい場合、書類内の白色に用紙の白色を使用したい場合。PostScript カラー管理で、ソース色空間の定義を伴う CMYK のデータに適用してシミュレーションを行いたい場合にも使用します。	相対カラー メトリック
絶対カラー メトリック	RGB ソースプロファイルで定義された白色点値を使用します。たとえば、モニタ上の青みがかかった灰色は、青みがかかった灰色そのままの色味で出力されます。	モニタ表示カラーを正確に出力したい場合、ファイルの縁がハッキリしてもかまわない場合。PostScript カラー管理でソース色空間の定義を伴う CMYK のデータに適用してシミュレーションを行いたい場合にも使用します。	絶対カラー メトリック

## 出力プロファイル

印刷ジョブのすべてのデータにここでの設定が適用されるので、ジョブの印刷時には、選択されている出力プロファイルが適切であることを確認してください。デフォルト出力プロファイルは、プリンタのカラー特性を記述したデータ、およびキャリブレーションターゲットで構成されています。

Fiery Spark Pro 提供の出力プロファイルは、キャリブレーションセットに対応します。

特別のカラー効果を得るために、Fiery ColorWise Pro Tools の Color Editor を利用して、デフォルト出力プロファイルを編集(カスタマイズ)することができます(3-2 頁参照)。この場合、印刷ジョブのすべてのデータに新しいカスタム出力プロファイルが適用されます。キャリブレーションターゲットは、プリンタの機種に基づいて作成されているため、プロファイルのみを変更してもキャリブレーションターゲットには影響ありません。ただし必要であれば、キャリブレーションターゲットの最大濃度値(Dmax)を独立して編集できます(3-5 頁参照)。

Fiery ColorWise Pro Tools の Profile Manager を使用して、独自の出力プロファイルを Fiery Spark Pro にダウンロードすることもできます(3-13 頁参照)。ダウンロードされた出力プロファイルは、最初はデフォルトキャリブレーションターゲットと関連して使用されますが、上述のように、キャリブレーションターゲットの最大濃度値(Dmax)は編集可能です。

Windows 用 PostScript ドライバでは、「双方向通信」が選択してある場合、「出力プロファイル」のメニュー欄に、Fiery Spark Pro にダウンロードされている各プロファイル名が表示されます。Mac OS 用 Adobe PostScript ドライバでは、カスタムプロファイルは「出力 - 1」～「出力 - 10」と表示されます。

## スポットカラーマッチング

このオプションでは、スポットカラーを出力プロファイルを使用して変換するか、アプリケーションの定義に従って変換するかを指定します。

- オン - Fiery Spark Pro 内蔵の色分解表をもとに、プリンタの色の範囲内で行えるだけ正確にスポットカラーを CMYK データに変換します(色分解表は、出力プロファイルごとに作成されます)。

注意：内蔵の色分解表で定義されていないスポットカラーは CMYK カラーとして処理されます。

- オフ - アプリケーションでの定義に従って、スポットカラーはCMYKデータとして処理されます。この時 CMYK シミュレーションの設定が反映されます。

スポットカラーを含んだジョブの場合、印刷標準用シミュレーションを適用しない限り、「スポットカラーマッチング」で「オン」を選択します。印刷標準用シミュレーションを出力する場合は、「スポットカラーマッチング」で「オフ」を選択してから、「CMYK シミュレーションプロファイル」で適切なプロファイルを選択します（1-3 頁参照）。

注意：「スポットカラーマッチング」での設定は、分版の出力には適用されません。

### スポットカラーマッチングと PANTONE Coated カラー参照

「スポットカラーマッチング」での設定に応じて、PANTONE Coated カラー参照ファイル（Pantone.ps）を異なるカラーで出力できます。

- オン - PANTONE Coated カラー参照を出力する際、Fiery Spark Pro は内蔵の色分解表、をもとに、プリンタの出力範囲内ですできるだけ正確に PANTONE カラーを CMYK データに変換します。各 PANTONE カラーパッチの下に PANTONE カラー番号が表示されます。
- オフ - PANTONE Coated カラー参照を出力する際、Fiery Spark Pro は Pantone Inc. 推奨（かつ PANTONE カラーを提供するアプリケーションでの定義）の CMYK カラー値で出力します。各 PANTONE カラーパッチの下には、カラー変換に使用される CMYK カラー値と PANTONE カラー番号が表示されます。

備考：PANTONE Coated カラー参照ファイル（Pantone.ps）は、ユーザソフトウェア CD に格納されています。

### テキストと画像に純ブラック使用

このオプションで「オン」を選択すると、RGB（R：0、G：0、B：0）またはCMYK（C：0%、M：0%、Y：0%、K：100%）で定義されたブラックが、ブラクトナーのみで出力されます。このオプションは、ブラックのテキストとベクトルグラフィックのみに効果があります。

ほとんどのジョブでは、「オン」の設定で優れた出力を得られます。使用するトナーがブラックトナー 1 種類なので、版ずれ、トナーのはみ出し\*、ハーフトーン印刷でのモアレなどの問題を避けることができ、鮮やかな出力が得られます。

一方、ブラックを含むグラデーションを使用したジョブを出力する場合など、このオプションを「オフ」に設定した方がよいジョブもあります。

次の表は、このオプションでの設定が定義の異なるブラックにどのように作用するかを表します。

ブラック を入力	純ブラックのテキストと画像	
	オン	オフ
RGB	ブラックのトナーのみでブラックを出力します。濃度はプリンタのキャリブレーション状況により異なります。	デフォルトのプロファイルでは、すべてのトナーを使用して 4 色による深みのあるブラックを出力します。
CMYK		CMYK シミュレーションがブラックのチャンネルの情報を保持するため、ブラックのトナーのみでブラックを出力します。濃度はCMYKシミュレーション方法の設定とプリンタのキャリブレーション状況により異なります。
スポット カラー		スポットカラーシミュレーションがブラックのチャンネルの情報を保持するため、ブラックトナーのみでブラックを出力します。濃度はCMYKシミュレーション方法の設定とプリンタのキャリブレーション状況により異なります。

注意：「テキストと画像に純ブラック使用」での設定は、分版合成出力のみに適用され、分版の出力には適用されません。

注意：PostScript アプリケーションのなかには、印刷ジョブを Fiery Spark Pro に送る前に、RGB で定義されたブラックを 4 色の CMYK ブラックに変換するものがあります（QuarkXPress など）。このブラックには、「テキストと画像に純ブラック使用」オプションは適用されません。

## 用紙シミュレーション

用紙カラーに合わせて CMYK 色空間の調整を行うかどうか指定します。

- オン - 用紙のカラーに合わせて印刷時に CMYK 値の調整を行います。
- オフ - 印刷時のカラー調整は行われません。通常の CMYK 値処理が適用されません。

## プリンタドライバとプリントオプション

ワークフローにおけるプリンタドライバの役割と、Windows または Mac OS 用プリンタドライバを使用して Fiery Spark Pro に出力する方法を説明します。

注意：本書での PostScript に関する記述は、すべて PostScript レベル 2 以降を対象としています。

### プリンタドライバの役割

Fiery Spark Pro の機能を十分に活用するには、印刷ジョブを PostScript レベル 2 以降のファイル形式で送る必要があります。ほとんどのアプリケーションは、この PostScript データを直接作成することができません。この場合は、プリンタドライバがアプリケーションからの指示情報を解釈し、PostScript データに変換します。

PostScript レベル 2 または PostScript 3 プリンタドライバを使用すると、プリントデバイス固有のプリントオプションが選択できます。ただし、Fiery Spark Pro 用 PostScript プリンタ記述 ( PPD ) ファイルに対応するプリンタドライバを使用する必要があります。PPD は Fiery Spark Pro およびプリントデバイス固有の機能に関する情報を含んでいます。ジョブを出力する際、このプリンタドライバを使用すると、プリントオプション設定のダイアログボックスでそれらの機能が選択できます。

一部の PostScript アプリケーションは、PostScript データを直接プリントデバイスに送ることができ、ユーザはアプリケーションのインターフェイスでプリントオプションを選択できます。ただし、これらのアプリケーションから出力する場合も、PostScript レベル 2 または PostScript 3 対応プリンタドライバを使用する必要があります。

Fiery Spark Pro ユーザソフトウェアは Windows および Mac OS 用 PostScript プリントドライバを提供しています。Fiery Spark Pro に出力する場合は、これらのプリントドライバを使用することをおすすめします。プリントドライバのインストールの手順は、『インストールガイド』を参照してください。

最初に、Fiery ColorWise Pro Tools の Color Setup で、プリントオプションを設定してください。ほとんどの印刷ジョブは、この設定をデフォルトとして適切に出力できます。

## Windows 用 PostScript プリントドライバ

プリントドライバは、アプリケーションからのデータと Fiery Spark Pro のプリントオプションでの設定を元に、PostScript ファイルを作成します。プリントドライバはその PostScript ファイルを Fiery Spark Pro に送信します。Fiery Spark Pro は受信した PostScript を処理し、カラー変換を行い、RIP 済みカラーデータをプリンタに送ります。

注意：アプリケーションによっては、表示される画面や設定する方法が異なる場合があります。Adobe PageMaker、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、QuarkXPress などのアプリケーションでは、プリントドライバに依存せず、アプリケーション上で、カラー管理オプションを設定することもできます。

### Windows カラー管理プリントオプションの設定

ここでは、Windows 用 PostScript プリントドライバを使用して、カラー管理のためのプリントオプションを指定する方法を説明します。Fiery Spark Pro 提供のプリントドライバは、PostScript 3 に対応しているため、Fiery Spark Pro のカラー機能を活用できます。設定を始める前に、『インストールガイド』の記述に従って、次の設定が済んでいることを確認してください。なお、Windows からの印刷の詳細については、『印刷ガイド』の第 1 章を参照してください。

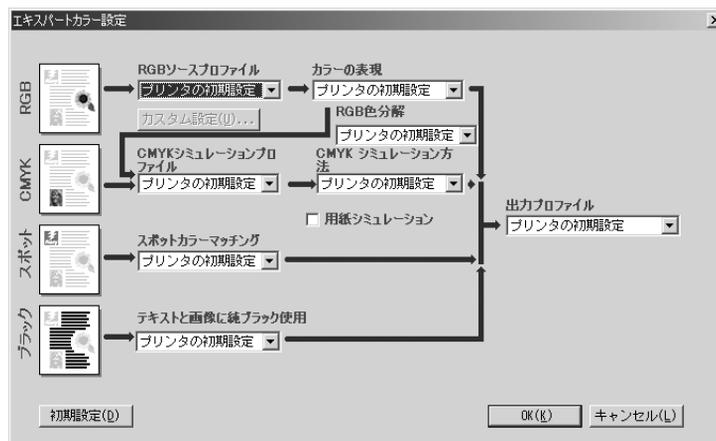
- PostScript プリントドライバ および Fiery Spark Pro 用 PPD がインストールされていること
- Fiery Spark Pro の出力用の設定が行われていること
- Fiery Spark Pro 用の ICC プロファイルがインストールされていること

「Fiery 印刷」タブでプリントオプションを設定します。プリントドライバのオプションを表示する方法については、『印刷ガイド』を参照してください。

ColorWise オプションを設定するには：

1. 「ColorWise」オプションバーをクリックします。
2. 「ColorWise」欄でオプションを設定します。
3. 「エキスパート設定」ボタンをクリックします。

各オプションの内容は、1-3 頁「ColorWise オプションの詳細」を参照してください。



「RGB ソースプロファイル」で「カスタム」を選択した場合は、「カスタム設定」ボタンをクリックして表示される「カスタム設定」ダイアログボックスで、「ガンマ」、「白色点」、「RGB 色度座標」の値を指定し「OK」をクリックします。

注意：「プリンタのプロパティ」ダイアログボックスの「構成」タブで、「双方向通信」オプションが選択されている場合は、画面右下に「更新」ボタンが表示され、このボタンをクリックすると Fiery Spark Pro の現設定内容が表示されます。「キャンセル」をクリックすると現設定内容は表示されません。

## Mac OS 用 Adobe PostScript プリンタドライバ

ここでは Mac OS 用 Adobe PostScript プリンタドライバを使用して、カラー管理用プリントオプションを設定する方法を説明します。Fiery Spark Pro 提供のプリンタドライバは PostScript 3 対応なので、Fiery Spark Pro のカラー機能を活用できます。次に進む前に、『インストールガイド』の記述に従って、以下が終っていることを確認してください。また、Mac OS からの印刷についての詳細は、『印刷ガイド』の第 2 章を参照してください。

- Adobe PostScript プリンタドライバおよび Fiery Spark Pro 用 PPD がインストールされていること
- 「セレクト」で Fiery Spark Pro が選択され、Fiery Spark Pro 用 PPD 設定が行われていること

注意： Adobe PageMaker、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、QuarkXPress などのアプリケーションでは、プリンタドライバに依存せず、アプリケーション上で、カラー管理オプションを設定することもできます。

### カラー管理プリントオプションの設定

プリントオプションは、Adobe PostScript プリンタドライバのダイアログボックス内の各設定欄で選択します。

プリンタドライバからのオプションを表示するには、アプリケーションで「ファイル：プリント（印刷）」を選択します。「一般設定」を含むプルダウンメニュー内の「カラー設定」を選択して表示されるダイアログボックスでは、「カラー：カラー/グレースケール」を選択します。

次にカラーマッチングオプションの詳細を記載します。

- カラー/グレースケール - このオプションを選択して Fiery Spark Pro から出力すると、ColorWise がすべてのカラー変換を行います。ほとんどの場合、このオプションで適切に出力できます。
- ColorSync カラーマッチング - コンピュータ上でカラー変換を行うときに使用します。このオプションは、Fiery Spark Pro など PostScript レベル 2 または PostScript 3 対応プリンタでも使用できますが、PostScript レベル 1 プリンタで使用するためのものです。Fiery Spark Pro 出力時にこのオプションを使用する場合は、必ず「プリンタプロファイル」欄でユーザ指定の ICC プロファイルまたは Fiery Spark Pro

用 ICC プロファイルを選択してください。このオプションは、アプリケーションによっては使用できません。使用可能なアプリケーションでも、ColorWise の機能を不使用にしなければならないので、このオプションはなるべく使用しないでください。

- PostScript カラーマッチング - このオプションは Fiery Spark Pro など PostScript レベル 2 以降のプリンタで使用するためのものです。Fiery Spark Pro に内蔵されているカラーの表現( CRD )または印刷ジョブと共にダウンロードされるカラーの表現を適用して、Fiery Spark Pro でカラー変換を行うときに使用します。

注意：「PostScript カラーマッチング」を指定した場合、使用するアプリケーションによっては、プリンタドライバが印刷ジョブの CMYK データに、CMYK ソース定義を添付します。この場合、CMYK のデータは、Fiery Spark Pro でカラーの表現( CRD )の設定に従って再分解されます。分解後の色空間は、プリントオプションの RGB 色分解の設定によって異なります。「RGB 色分解」を「シミュレーション」に設定すると、「CMYK シミュレーションプロファイル」と「シミュレーション方法」の設定に従って、CMYK データが出力されます。「RGB 色分解」を「出力」に設定すると、CMYK データは、選択されている出力プロファイルの CMYK 色空間で出力されます。

ColorWise オプションを含む、プリンタ固有のプリントオプションを表示するには、プルダウンメニュー内の「プリンタ固有機能」を選択します。プリントオプションを設定するには、オプション右側に表示されるプルダウンメニューからオプション項目を選択します。各オプションの内容は、1-3 頁「ColorWise オプションの詳細」を参照してください。

ここでの設定の組合せを頻繁に使用する場合は、「設定を保存」をクリックして設定を保存することをおすすめします。

### Mac OS X Native でのプリントオプションの設定

Mac OS X Native の場合は、次の手順に従って、Adobe PostScript プリンタドライバのダイアログボックス内の各設定欄でプリントオプションを選択します。

注意：Mac OS からの印刷についての詳細は、『印刷ガイド』の第 2 章を参照してください。

プリンタドライバからのオプションを表示するには、アプリケーションで「ファイル：プリント（印刷）」を選択します。「印刷部数と印刷ページ」を含むプルダウンメニュー内の「プリンタ固有機能」を選択します。

1-3 頁「ColorWise オプションの詳細」を参照して、必要に応じてプリントオプションを設定します。

## 第 2 章： カラーキャリブレーション

本章では、キャリブレーションの目的と手順について説明します。

カラーキャリブレーションを行うと、常に一貫したカラーで出力できます。Fiery ColorWise Pro Tools の Calibrator と分光測色計、濃度計、を併用して、測定値に基づいた Fiery Spark Pro のキャリブレーションを行えます。

Fiery ColorWise Pro Tools 提供の高度な機能（プロファイルの編集、カスタムプロファイルの作成など）については、「第 3 章：Fiery ColorWise Pro Tools」を参照してください。測定値をインポートする方法については「付録 B」を参照してください。

注意：Windows および Mac OS 用 Fiery ColorWise Pro Tools の機能と画面は、基本的には同じです。本章では Windows の画面を表示します。

### キャリブレーションとは

キャリブレーション曲線は、実際の測定値とキャリブレーションセットに基づいて生成されます。

- 測定値は、プリンタの実際のカラー状況を表します。この値は分光測色計、濃度計、から入力されます。
- キャリブレーションセットは、ターゲット値を表します。出力プロファイルには、プリンタの理想カラー状況を表すターゲット値が含まれています。

キャリブレーションを適用すると、実際の測定値とターゲット値の差異が補正されます。

Fiery ColorWise Pro Tools を使用して Fiery Spark Pro をキャリブレートすると、キャリブレーションセットが Fiery Spark Pro に格納されます。このキャリブレーションセットは、出力プロファイルに関連づけられることにより機能します。出力プロファイルにキャリブレーションセットがカスタム指定されていない場合は、デフォルトキャリブレーションセットが適用されます。

## キャリブレーションの適用

ほとんどのジョブは、デフォルトのキャリブレーションセットで適切に出力できますが、Fiery Spark Pro では、印刷ジョブの種類に応じてキャリブレーションセットを選択し、ジョブごとにキャリブレーションをカスタマイズすることもできます。

キャリブレーションを行うと以下が可能になります。

- Fiery Spark Pro のカラー再現能力を最大化します。
- カラー品質が常時一定になるようにします。
- どの Fiery Spark Pro システムを使用しても、一貫したカラー出力が得られます。
- PANTONE カラーや他の名称付きカラーシステムなどのスポットカラーを使用する時に、より正確なカラーで出力します。
- ColorWise の「カラーの表現」および「CMYK シミュレーションプロファイル」を使用したり、ICC 対応プロファイルを使用する際に、それらの最大効果が得られるように Fiery Spark Pro を最適化します。

## キャリブレーションの動作原理

Fiery Spark Pro などのカラーサーバを使用して、プリンタからカラー出力を行う場合の出力品質は、さまざまな要因に左右されます。とくに最適なトナー濃度を設定し、それを維持することは品質維持に重要です。濃度は表層が吸収する光の量の尺度です。トナー濃度を調整することにより、一貫したカラー出力を得ることができます。

プリンタを調整しているとしても、トナー濃度は湿度や温度の影響を受けやすく、時間経過とともに変わる可能性があります。定期的にキャリブレーションを行えば、日々の変化に対処できます。

キャリブレーション曲線は一種のトランスファ関数です。トランスファ関数とは数学用語で、データの遷移を表現するものです。トランスファ関数は通常、出力 / 入力曲線としてグラフ化されています。

Fiery Spark Pro は、4 色の各トナーカラーの測定値とターゲット値を比較しキャリブレーション曲線を生成します。ターゲット値は指定出力プロファイルとプロファイルに関連づけられたキャリブレーションセットに基づいて決まります。

## 測定

測定ファイルにはプリンタのトナー濃度が数値化されて入っています。この数値は単色のシアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの濃淡をプリンタで出力したものを測定して作成された値です。

測定ファイルを作成するには、Fiery ColorWise Pro Tools から測定用のパッチページをプリンタに印刷します。次にコンピュータに接続された測定計器を使用して、このパッチページを測定します。新測定値は自動的に Fiery Spark Pro に格納されます。

## 出力プロファイルとキャリブレーションセット

出力プロファイルとキャリブレーションセットは、好ましいキャリブレーション結果を定義します。Fiery Spark Pro では複数の出力プロファイルと複数のキャリブレーションセットが提供されています。Fiery Spark Pro のキャリブレーションを行う際、これらのキャリブレーションセットの中から目的に応じて選択します。同一キャリブレーションセットを複数の出力プロファイルに関連づけることもできます。出力プロファイルの詳細については、1-10 頁を参照してください。

## キャリブレーションのスケジューリング

印刷ジョブの量によりますが、通常、少なくとも日に 1 回 Fiery Spark Pro をキャリブレーションすることをおすすめします。一貫したカラーを維持することが非常に重要な場合、またはプリンタが温度や湿度のかなりの変化にさらされる場合は、数時間ごとにキャリブレーションを行ってください。また、出力品質の変化に気づいた時も、キャリブレーションを行ってください。

印刷ジョブを複数バッチに分割する場合は、必ず各バッチの印刷前にキャリブレーションを行ってください。プリンタの点検修理後も Fiery Spark Pro のキャリブレーションを行う必要があります。ただし、点検修理の直後はまだプリンタの状態が不安定かもしれないので、50 枚ほど印刷してからキャリブレーションをおすすめします。

注意：非常に微妙な温度や湿度の変化が、プリンタの出力に影響します。これらの影響をできるだけ避けるために、窓際や直射日光のあたる場所や冷暖房装置の近くを避けてプリンタを設置してください。印刷用紙も同様に気温や湿度に影響されます。印刷用紙は涼しく温湿変化の少ない場所に保管してください。

カラー表やカラー参照ファイルなどの標準カラーページを印刷してみてください。カラー表は Command WorkStation から印刷できます。カラー参照ファイルは、Fiery Spark Pro ユーザーソフトウェア CD で提供されています（『インストールガイド』参照）。これらのページには、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの彩度 100% のパッチと淡色パッチとが載っています。肌色色調の画像は比較には最適です。また、別々の時に印刷したページを保存しておいて比較することができます。これらの色調に目に見える変化がある場合は、Fiery Spark Pro のキャリブレーションを行ってください。

カラー表およびカラー参照ファイルが、適切に出力されたことを確認してください。カラーパッチは、2 ~ 5% の淡色パッチでも、肉眼で見えるはずですが、100 ~ 0% にかけて、パッチのカラーは徐々に淡くなります。

もし最高濃度のパッチ（各色 100%）が時間経過とともに薄れていくようであれば、そのページを担当サービスに見せて、プリンタの出力が改善されるような調整が可能かどうか検討してください。

## キャリブレーション状況の確認

ジョブを印刷する前に Fiery Spark Pro が前回キャリブレーションされた日時や使用キャリブレーションセット名を確認することができます。次の方法で最新のキャリブレーション情報を確認してください。

- Command WorkStation から、設定情報ページまたはテストページを印刷します。
- Fiery ColorWise Pro Tools の「Calibrator」をクリックします。「キャリブレーションセット」欄にキャリブレーション実施日、担当者名などが表示されます。

## Fiery ColorWise Pro Tools 使用のキャリブレーション

Fiery ColorWise Pro Tools の Calibrator から測定値に基づくキャリブレーションが簡単に行えます。

備考：キャリブレーションの変更は RIP 済みジョブにも適用されます。Command WorkStation、Fiery Spooler で印刷ジョブを再 RIP する必要はありません。

注意：キャリブレーションを変更すると、全ユーザの印刷ジョブに影響します。このため、許可された担当者だけがキャリブレーションを行えるようにすることをおすすめします。システム管理者用パスワードの設定に関する詳細は、『設定管理ガイド』を参照してください。

注意：EFI Densitometer ED-100 は Calibrator のメニューには表示されますが、サポートされていません。

備考：また本書では、EFI Spectrometer ES-1000 を EFI Spectrometer と表記します。EFI Spectrometer は EFI 社製の分光測色計です。

---

Calibrator を使用するには：

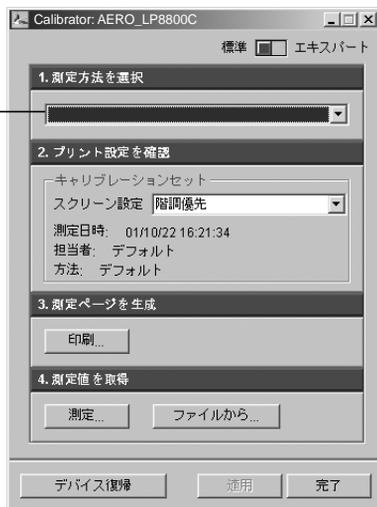
1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、キャリブレーション対象の Fiery Spark Pro に接続します。



Spot-On に関する詳細は、「第 3 章：Fiery ColorWise Pro Tools」を参照してください。また、Fiery Spark Pro への接続構成に関する詳細は、『インストールガイド』を参照してください。

2. 「Calibrator」をクリックします。

測定方法名



「測定方法を選択」欄に測定に使用する方法が表示されます。各測定方法を使用するキャリブレーションの方法については、次の項で説明します。

「プリント設定を確認」欄ではスクリーン設定を選択します。キャリブレーションセットの詳細については、2-1 頁の「キャリブレーションとは」を参照してください。

## エキスパートモード

Calibrator をエキスパートモードで使用できます。「エキスパートモード」では、「ページを印刷 (オプション)」および「測定値を表示 (オプション)」が追加されます。

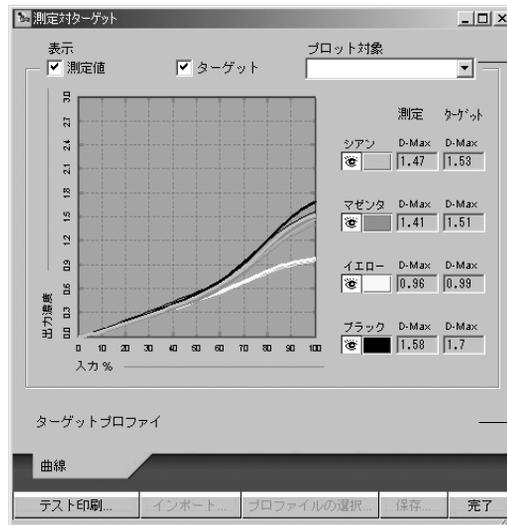
測定方法名



「ページを印刷 (オプション)」では、新測定値と既存のキャリブレーションセットを使用したキャリブレーションを検証するために、比較ページを印刷できます。

ユーザ専用の比較ページを別途作成することもできます。まずアプリケーションで PostScript または EPS ( Encapsulated PostScript ) ファイルを作成し、「CALIB.PS」と名付けます。それから、アプリケーションまたは Fiery Downloader を使用して Fiery Spark Pro の待機キューにダウンロードまたは印刷します。すでに待機キューに入っている任意のジョブの名称を、Command WorkStation から「CALIB.PS」に変更することもできます (『ジョブ管理ガイド』参照)。

「測定値を表示(オプション)」を使用すると、現在の測定値のグラフと測定値対ターゲット値のグラフを表示できます。



2 つ以上の出力プロファイルで同じターゲット値を使用する場合、「プロット対象」のメニューが上図の右上の部分に表示され、同じターゲット値を使用する出力プロファイルの名称が列挙されます。出力プロファイルを選択すると、選択した出力プロファイルとターゲット値のグラフが表示されます。

各出力プロファイルで異なるターゲット値を使用する場合は、プロファイルを換えるとグラフも変化します。

## デフォルトキャリブレーション測定値への復帰

以下の手順でキャリブレーション測定値を工場出荷値に復帰できます。

出荷時のキャリブレーション測定値に復帰するには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、「Calibrator」をクリックします。
2. 「デバイス復帰」をクリックします。

デフォルトキャリブレーションを出荷時のキャリブレーションに復帰する、というメッセージが表示されます。

3. 「OK」をクリックし、出荷時のキャリブレーションに復帰します。

注意：現在選択されているキャリブレーションセットだけが、出荷時のキャリブレーションに戻ります。

注意：「印刷」をクリックする前に、指定した入力トレイに適切な用紙がセットされていることを確認してください。

## EFI Spectrometer 使用のキャリブレーション

以下の手順に従って、EFI Spectrometer を使用するキャリブレーションを行います。

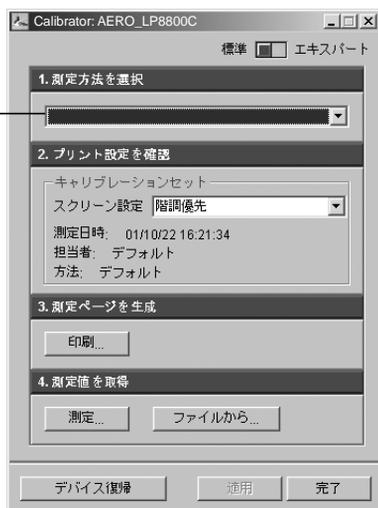
EFI Spectrometerの詳細については、「付録A: カラー測定計器」およびEFI Spectrometerの取扱説明書を参照してください。

---

Fiery ColorWise Pro Tools と EFI Spectrometer を使用してキャリブレートするには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、Fiery Spark Pro に接続します。
2. 「Calibrator」をクリックします。

測定方法名



3. 「測定方法を選択」欄で「EFI Spectrometer」を選択します。
4. 「プリント設定を確認」欄でスクリーン設定を選択します。  
注意：このキャリブレーションを適用するには、このキャリブレーションセットを1つ以上の出力プロファイルに関連づける必要があります。ただし、デフォルトのキャリブレーションセットは、自動的にデフォルトの出力プロファイルに関連づけられているため、新たに関連づける必要はありません。
5. 「測定ページを生成」欄で、「印刷」をクリックします。
6. 「プリントオプション」ダイアログボックスで項目を選択し、「印刷」をクリックします。



「ページの種類」では、「34 ソート済みパッチ」、「21 ソート済みパッチ」、「34 ランダムパッチ」、または「21 ランダムパッチ」を選択します。

「ページの種類」と「用紙サイズ」は連動しています。たとえば「ページの種類」で「34 ソート済みパッチ」を選択すると、「用紙サイズ」では「A3/ タブロイド」が表示されます。「21 ソート済みパッチ」を選択すると、「A4/ レター」が表示されます。

「入力トレイ」で適切な項目を選択します。

測定ページを手差しトレイから出力する場合は、「入力トレイ」欄で「手差し」を選択してください。

注意：「印刷」をクリックする前に、指定した入力トレイに適切な用紙がセットされていることを確認してください。

7. 「測定値を取得」欄で「測定」をクリックします。



「用紙サイズ」欄には、手順6で選択したサイズが表示されます。

8. ページの種類と用紙サイズを確認し、「測定」をクリックします。  
「情報」画面が表示されます。
9. EFI Spectrometer をキャリブレーションドックに置いて、「OK」をクリックします。  
「EFI Spectrometer ES-1000 測定」ダイアログボックスが現れ、「Status」欄に測定  
の指示が表示されます。

測定指示を表示



注意：正確な測定結果を得るために、測定ページの下に白紙を数枚敷いて測定ページ以外の色が混入しないようにしてください。

10. EFI Spectrometer のアパーチャ（計器露光部分）を、指定されたカラーstriップの開始部分の横の白い場所に配置します。
11. 測定ボタンを押したままで、合図音が鳴るのを待ちます。  
注意：Windows 対応コンピュータで合図音を聞くには、サウンドカードとスピーカがインストールされている必要があります。
12. 合図音が鳴ったら、EFI Spectrometer をゆっくりと同一速度でスライドさせて、striップを測定します。
13. striップ内の全パッチを測定し、EFI Spectrometer のアパーチャがカラーstriップ最後の横の白い部分に来たら、指を測定ボタンから離します。  
パッチの測定が正しく行われると、カラー名の横にチェックマークが表示され、次に測定するカラーの上に十字マークが表示されます。
14. 上記の手順を繰り返し、すべてのカラーstriップを測定します。  
注意：測定は、画面に表示された順序で行う必要があります。
15. 全striップの測定が完了したら、「承認」をクリックします。



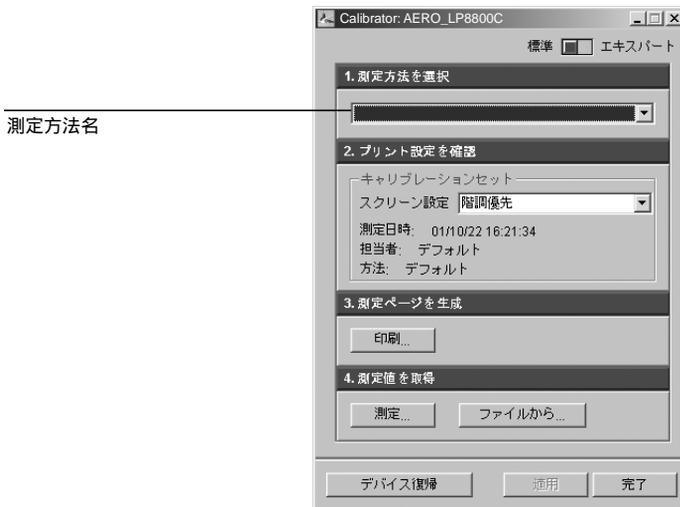
16. 「Calibrator」ダイアログボックスで「適用」をクリックし、新キャリブレーション測定値を適用します。
17. 「情報」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。  
これでキャリブレーション作業が完了しました。

## X-Rite DTP32 使用のキャリブレーション

以下の手順に従って X-Rite DTP32 使用のキャリブレーションを行います。

Fiery ColorWise Pro Tools と X-Rite DTP32 を使用してキャリブレートするには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、キャリブレーション対象の Fiery Spark Pro に接続します。
2. 「Calibrator」をクリックします。



3. 「測定方法を選択」欄で、「X-Rite DTP32」を選択します。
4. 「プリント設定を確認」欄で、スクリーン設定を選択します。

注意：このキャリブレーションを適用するには、このキャリブレーションセットを1つ以上の出力プロファイルに関連づける必要があります。ただし、デフォルトのキャリブレーションセットは、自動的にデフォルトの出力プロファイルに関連づけられているため、新たに関連づける必要はありません。

5. 「測定ページを生成」欄で、「印刷」をクリックします。
6. 「プリントオプション」ダイアログボックスで適切な項目を選択し、「印刷」をクリックします。



「ページの種類」では、「34 ソート済みパッチ」または「21 ソート済みパッチ」を選択します。

「用紙サイズ」で測定ページのサイズを選択します。「ページの種類」で「34 ソート済みパッチ」を選択した場合は「A3 / タブロイド」が、「21 ソート済みパッチ」を選択した場合は「A4 / レター」が、自動的に表示されます。

「入力トレイ」で適切な項目を選択します。

注意：「印刷」をクリックする前に、指定した入力トレイに適切な用紙がセットされていることを確認してください。

7. 「測定値を取得」欄で、「測定」をクリックします。
8. ページの種類と用紙サイズを選択してから、「測定」をクリックします。



- 表示されるダイアログボックスに従って、測定ページを X-Rite DTP32 で読み取ります。



ポートを選択して「開始」をクリックすると、「状態」欄に、各カラーごとに、カラストリップを挿入するようとの指示が表示されます。

- 測定ページが適切に読み取られたとのメッセージが「状態」欄に表示されたら、「承認」をクリックします。
- 「測定」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
- 「Calibrator」ダイアログボックスで「適用」をクリックし、新キャリブレーション測定値を適用します。
- 「情報」ダイアログボックスで、「OK」をクリックします。  
これでキャリブレーション作業が完了しました。

## X-Rite DTP41 使用のキャリブレーション

以下の手順に従って X-Rite DTP41 使用のキャリブレーションを行います。

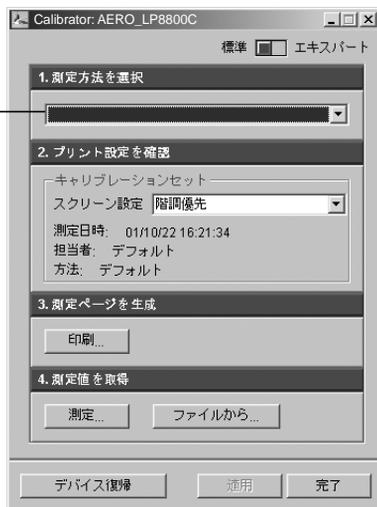
---

Fiery ColorWise Pro Tools と X-Rite DTP41 を使用してキャリブレートするには：

- Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、キャリブレーション対象の Fiery Spark Pro に接続します。

2. 「Calibrator」をクリックします。

測定方法名



3. 「測定方法を選択」欄で、「X-Rite DTP41」を選択します。
4. 「プリント設定を確認」欄で、スクリーン設定を選択します。

注意：このキャリブレーションを適用するには、このキャリブレーションセットを1つ以上の出力プロファイルに関連づける必要があります。ただし、デフォルトのキャリブレーションセットは、自動的にデフォルトの出力プロファイルに関連づけられているため、新たに関連づける必要はありません。
5. 「測定ページを生成」欄で、「印刷」をクリックします。
6. 「プリントオプション」ダイアログボックスで適切な項目を選択し、「印刷」をクリックします。



「ページの種類」では、「34 ソート済みパッチ」または「21 ソート済みパッチ」を選択します。

「用紙サイズ」で測定ページのサイズを選択します。「ページの種類」で「34 ソート済みパッチ」を選択した場合は「A3 / タブロイド」が、「21 ソート済みパッチ」を選択した場合は「A4 / レター」が、自動的に表示されます。

「入力トレイ」で適切な項目を選択します。

注意：「印刷」をクリックする前に、指定した入力トレイに適切な用紙がセットされていることを確認してください。

7. 表示された「情報」ダイアログボックスで、「OK」をクリックします。
8. 「測定値を取得」欄で、「測定」をクリックします。
9. ページの種類と用紙サイズを確認し、「測定」をクリックします。



10. 「測定開始」をクリックします。

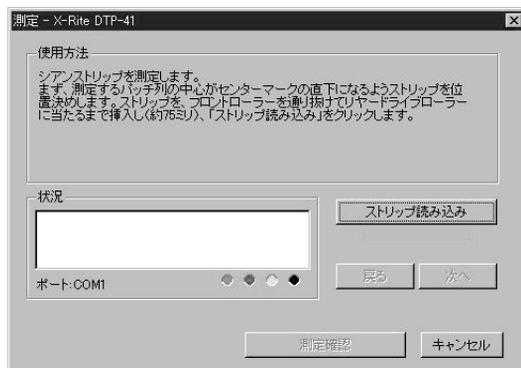
必要であれば、「使用可能ポート」メニューから、X-Rite DTP41 が接続されているポートを選択してください。



11. 測定ページを X-Rite DTP41 に挿入します。

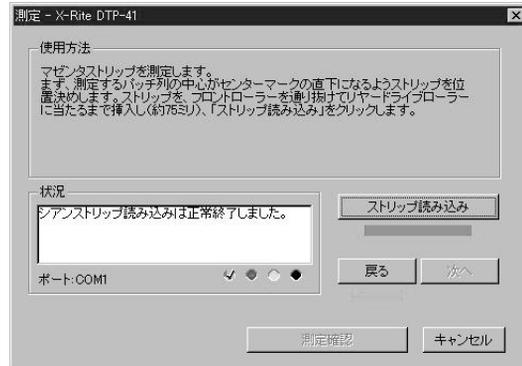
測定するカラーの中央がセンターマークに合うように、測定ページを測定ページスロットに挿入します。フロントローラーを通り抜けて、リヤードライブローラーにあたるまで、約 75mm 挿入してください。

12. 「ストリップ読み込み」をクリックします。



X-Rite DTP41 が自動的に測定ページを引き込み、読み込みます。「使用方法」欄に順次表示される指示に従って、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックのストリップを読み込みます。

読み込みが終了したカラーは、「状況」欄の下にある  がチェックされます。



13. 測定ページの4色すべてが適切に読み取られたら、「測定確認」をクリックします。
14. 「測定」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
15. 「Calibrator」ダイアログボックスで「適用」をクリックし、新キャリブレーション測定値を適用します。
16. 「情報」ダイアログボックスで、「OK」をクリックします。  
これでキャリブレーション作業が完了しました。



## 第 3 章： Fiery ColorWise Pro Tools

Fiery ColorWise Pro Tools はカラー管理用に次のツールを提供します。

- Calibrator
- Color Editor
- Profile Manager
- Spot-On
- Color Setup



本章では、Color Editor、Profile Manager、Spot-On、Color Setup の使用方法を説明します。Calibrator の詳細については、「第 2 章：カラーキャリブレーション」を参照してください。Fiery ColorWise Pro Tools のインストールと設定の詳細については、『インストールガイド』を参照してください。

注意：Windows と Mac OS 用 Fiery ColorWise Pro Tools の機能と画面は、基本的には同じです。本章では Windows の画面を表示します。

## Color Editor

Color Editor はシミュレーションプロファイルおよび出力プロファイルをカスタマイズするためのツールです。このツールは、Fiery ColorWise Pro Tools メイン画面から「Color Editor」をクリックするか、または Profile Manager 画面から「編集」をクリックして起動します。

### プロファイルの編集

Color Editor を使用すると、シミュレーションプロファイルおよび出力プロファイルを編集して、新プロファイルとして保存できます。これにより Fiery Spark Pro 内のプロファイルをジョブの出力目的に合わせて微調整できます。

注意：シミュレーションプロファイルと出力プロファイルの編集のみ可能です。ソースプロファイルの編集はできません。

シミュレーションプロファイルの編集用には、次の編集モードが用意されています。

- マスター - カスタムマスターシミュレーションプロファイルを作成します。マスターシミュレーションプロファイルは、シミュレーション方法や出力プロファイルにかかわらず、そのシミュレーションプロファイルが適用されているすべての印刷ジョブに影響します。
- 「フル(ソース GCR)」、「フル(出力 GCR)」、「クイック」 - カスタムリンクシミュレーションプロファイルを作成します。リンクシミュレーションプロファイルは、選択したシミュレーション方法や出力プロファイルの種類によって、同一ジョブに対して異なる結果をもたらします。カスタムリンクシミュレーションプロファイル作成に使用された出力プロファイルとシミュレーション方法をジョブ用に選択すると、ジョブにはこのリンクシミュレーションプロファイルが自動的に適用されます。カスタムリンクシミュレーションプロファイルのない出力プロファイルやシミュレーション方法を選択すると、マスターシミュレーションプロファイルが自動的に適用されます。

「クイック」は出力濃度のみを調整します。「フル(ソース GCR)」または「フル(出力 GCR)」は、出力濃度に加えて色合いも調整するので、より正確なシミュレーションが可能です。

出力プロファイルの編集用には、次の編集モードが用意されています。

- カスタム - 出力プロファイルを編集して、カスタムプロファイルを作成、保存します。
- 濃度 (%) - 出力プロファイルに入っているキャリブレーションのターゲット値を濃度 (%) で表示します。ここでキャリブレーションターゲットを編集することはできませんが、新しいターゲットを取り込むことができます。

マスターモードまたはカスタムモードでプロファイルを編集するには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、Fiery Spark Pro に接続します。  
Fiery Spark Pro への接続と設定方法については、『インストールガイド』を参照してください。
2. 「Color Editor」をクリックします。
3. 「プロファイルの選択」ダイアログボックスの、「表示」欄で「シミュレーション」または「出力」を選択し、一覧からプロファイルを選択します。

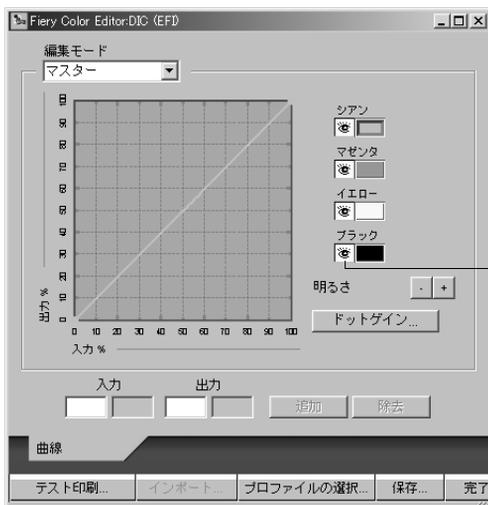


「シミュレーション」では Fiery Spark Pro 内蔵のシミュレーションプロファイルが、「出力」では Fiery Spark Pro 内蔵の出力プロファイルが表示されます。

4. 「選択」をクリックします。  
備考：「Color Editor」を使わずに、Profile Manager からプロファイルを選択し、「編集」をクリックする方法もあります。

5. 「編集モード」欄でシミュレーションプロファイル用には「マスター」を、出力プロファイル用には「カスタム」を選択します。

「クイック」、「フル(ソース GCR)」または「フル(出力 GCR)」モードについては、3-7 頁を参照してください。



眼アイコン

この画面ではプロファイルの表示と編集が可能です。グラフを利用してカラー出力値を編集できます。

注意：「カスタム」を選択し出力プロファイルを編集する場合、画面左下の「インポート」ボタンをクリックすると、古いバージョンの Fiery ColorWise Pro Tools を使用し、別の Fiery Spark Pro カラーサーバで作成したキャリブレーションターゲット (.trg) を取り入れることができます。最新版の Fiery ColorWise Pro Tools では、キャリブレーションターゲットのみの保存はできません。キャリブレーションターゲットは、出力プロファイルと組み合わせて保存されます。

6. 編集対象のカラーを選択します。

選択したカラーに対して曲線、明るさ、ドットゲイン値を変更できます。

編集対象のカラーを選択または選択解除するには、カラーボックスの左側をクリックします。選択されたカラーの左側ボックスに目のかたちをしたアイコンが表示されます。

4色（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）全部でも、各色の組み合わせでも選択可能です。1～2種類のカラーを選択して編集を行うと、区別が付き微調整しやすくなります。

7. 印刷標準出力シミュレーション用にドットゲイン値を調整するには、「ドットゲイン」をクリックし、ドットゲイン値を設定したあと、「OK」をクリックします。

ドットゲイン値は「明るさ」とは関係ありません。ドットゲイン値を変更することにより、全体的なカラーバランスに影響を及ぼすことなく、より彩度の高い出力が可能になります。ドットゲイン値はドットゲインをシミュレートするのであり、ドットゲインを補整するわけではありません。

ここでは北米標準かヨーロッパ標準を選択できます。標準を選んでから、スライダーを動かしてドットゲイン値を指定します。

- 北米標準では、入力50%に対するゲインの有効値は出力0%から50%までです。
- ヨーロッパ標準では、入力40%に対するゲインの有効値は出力0%から59%まで、入力80%に対するゲインの有効値は出力0%から20%までです。

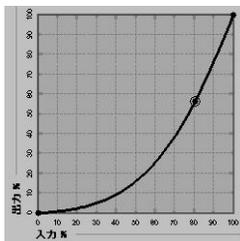
ドットゲイン値を使用すると、曲線のすべての点が除去されます。「ドットゲイン」ダイアログボックスで「OK」をクリックすると、警告メッセージが表示されるので、点を除去したくない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

8. 明るさを変更するには「-」または「+」をクリックします。

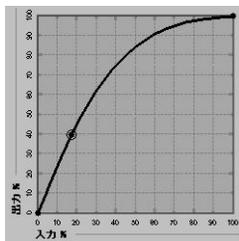
明るさを変更すると、曲線も影響を受けます。

9. グラフ内の点をクリックしドラッグするか、「入力」と「出力」欄に値を入力後「追加」をクリックして、曲線を調整します。

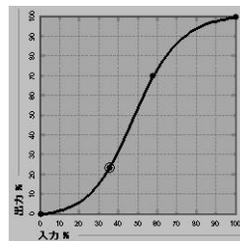
グラフは横軸が入力インクの割合、縦軸が出力インクの割合で両軸共10%ごとの間隔で表示されます。割合は、CMYKハーフトーンの点のサイズを示します。曲線上の点の変更可能な箇所です。



上図のようなカーブでは中間色の濃度が低く、カラーが明るくなります。



上図のようなカーブでは中間色の濃度が高く、カラーが暗くなります。



上図のようなカーブではコントラストが顕著になります。

注意：明るさやドットゲイン値を変更してから、点移動による曲線の調整を行ってください。点調整をしたあとに明るさやドットゲイン値を変更すると、点調整が無効になります。

「入力」または「出力」の値（％）を入力したり、キーボード上の矢印キーを使用すると、カーブの微妙な調整ができます。矢印キーを使用する場合は、まず、カーブをクリックしてください。

- 必要に応じて、出力プロファイルに対する、CMYKの各カラーの最高濃度を設定します。

濃度の設定をサポートするプロファイルの各カラーの最高濃度（D-Max）を設定できます。マスターモードでシミュレーションプロファイルを編集する場合は、最高濃度の設定はできません。

- 編集が終了したら「保存」をクリックし、表示されるダイアログボックスで新しいプロファイル名を入力して、「保存」をクリックします。

新しいカスタムプロファイルが Fiery Spark Pro に保存されます。DIC などの印刷標準シミュレーションプロファイルを編集した場合は、あとで分かりやすいようにプロファイル名にオリジナルの名称を含めておくことをおすすめします（たとえば「DIC-new」）。

注意：Fiery Spark Pro 提供のプロファイルは、ロックされているので書き換えられません。編集した場合は別名で保存する必要があります。

Windows では、プリンタドライバで「双方向通信」が選択してある場合、カスタムプロファイルの名称が表示されます。この場合、定義済みカスタムプロファイル名に関連付ける必要がありません。

Mac OS では、プリンタドライバからカスタムプロファイルを選択するには、あらかじめカスタムプロファイルを定義済みカスタムプロファイル名（シミュレーションプロファイル用には「シミュレーション -1」～「シミュレーション -10」、出力プロファイル用には「出力 -1」～「出力 -10」）に関連づけておく必要があります。

カスタムプロファイルは必要なだけ作成可能ですが、Mac OS のプリンタドライバからは、一度に 10 個までしか表示できません。カスタムプロファイルを定義済みカスタムプロファイル名に関連づける方法については、3-16 頁「カスタムプロファイルの関連づけ」を参照してください。

注意： カスタムプロファイルをデフォルトとして設定した場合は、定義済みカスタムプロファイル名に関連づけなくても、「プリンタの初期設定」を選ぶことによりそのプロファイルをプリンタドライバから選択できます。

12. Color Editor を終了する場合は「完了」をクリックします。別のプロファイルを選択する場合は、「プロファイルの選択」をクリックします。

Profile Manager から Color Editor を表示した場合は、「完了」をクリックします。

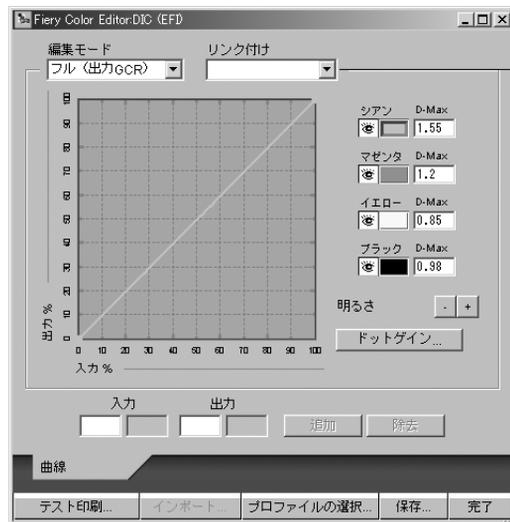
Fiery ColorWise Pro Tools メイン画面に戻ります。

---

クイック、「フル（ソース GCR）」または「フル（出力 GCR）」モードでシミュレーションプロファイルを編集するには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、Fiery Spark Pro に接続します。
2. 「Color Editor」をクリックします。
3. 「プロファイルの選択」ダイアログボックスで、「表示：シミュレーション」を選択します。
4. プロファイルを選択し、「選択」をクリックします。  
備考： Profile Manager からシミュレーションプロファイルを選択し、「編集」をクリックする方法もあります。
5. 「編集モード」欄で「フル（ソース GCR）」、「フル（出力 GCR）」または、「クイック」を選択し、「リンク付け」欄で編集後のシミュレーションプロファイルにリンクする出力プロファイルを選択します。

編集後のシミュレーションプロファイルが出力プロファイルにリンクします。



出力プロファイル名

注意：「クイック」を選択してシミュレーションプロファイルを編集する場合は、画面左下の「インポート」をクリックすると、古いバージョンの Fiery ColorWise Pro Tools を使用して、別の Fiery Spark Pro カラーサーバで作成したクイックシミュレーションプロファイルを取り入れることができます。最新版の Fiery ColorWise Pro Tools では、カスタムのクイックまたはフルシミュレーションプロファイルを個別に保存することはできません。クイックとフルのシミュレーションは、シミュレーションプロファイルの構成要素として保存されます。

- 3-4 頁の手順 6 から手順 11 を参照して、シミュレーションプロファイルを編集し、保存します。

CMYK シミュレーション、CMYK シミュレーション方法、および出力プロファイルの設定が編集前と異なる場合には、ここで保存されたシミュレーションは、印刷ジョブに自動的に適用されません。CMYK シミュレーション方法が異なったり、別の出力プロファイルが選択されている場合は、マスターシミュレーションが適用されます。

備考：シミュレーションプロファイルでは、1つの出力プロファイルにつき、1つのカスタムマスターシミュレーションおよび複数のリンクシミュレーション（「クイック」、「フル（ソース GCR）」、「フル（出力 GCR）」）を設定できます。

## 編集後のシミュレーションプロファイルを元に戻すには

次の方法で編集後のシミュレーションプロファイルを元に戻すことができます。

- まだ保存していない場合は、「完了」をクリックし、「変更を保存しますか？」というメッセージが表示されたら、「いいえ」をクリックします。
- 編集したシミュレーションプロファイルを別名で保存したあとに、すべての編集内容（クイックおよびフルモード）を削除したい場合は、3-15 頁を参照してください。

## 編集済みプロファイルの確認

Fiery Spark Pro にプロファイルを保存する前に、「テスト印刷」ダイアログボックスから次のページをテスト出力して編集結果を確認できます。

- 比較ページ - 編集前と編集後のプロファイルを適用した画像およびカラーパッチを比較できます。
- ユーザ作成CALIB.PSファイル - カスタム比較ページを別途作成することもできます。まずアプリケーションで PostScript または EPS（Encapsulated PostScript）ファイルを作成し、「CALIB.PS」と名付けます。それから、アプリケーションまたは Fiery Downloader を使用して Fiery Spark Pro の待機キューに印刷またはダウンロードします。

---

プロファイルを確認するには：

1. Color Editor 画面で「テスト印刷」をクリックします。
2. Fiery ColorWise Pro Tools 提供の比較ページを出力する場合は、用紙サイズと入力トレイを指定し、「印刷」をクリックします。

## Profile Manager

Profile Manager で ICC プロファイルの管理と編集を行います。

注意：Fiery Spark Pro のデフォルトプロファイルを変更すると、全ユーザの印刷ジョブに影響します。このため、システム管理者用パスワードを設定して、許可された担当者だけがプロファイルの変更を行えるようにすることをおすすめします。

ユーザはシミュレーションプロファイルを必要に応じて変更し、追加プロファイルとして保存し使用できます。また、ネットワーク上のコンピュータから Fiery Spark Pro にプロファイルをダウンロードすることもできます。

プロファイルは次の 3 種類に分類されています。

- RGB ソースプロファイル - Fiery Spark Pro 内蔵のモニタプロファイルです。このプロファイルで、Fiery Spark Pro で処理される RGB カラーのソース色空間を定義します (1-5 頁参照)。
- シミュレーションプロファイル - Fiery Spark Pro を使用して他のプリントデバイスをシミュレートするためのプリンタプロファイルです (1-3 頁参照)。
- 出力プロファイル - Fiery Spark Pro に接続されているプリンタ用のプロファイルです (1-10 頁参照)。

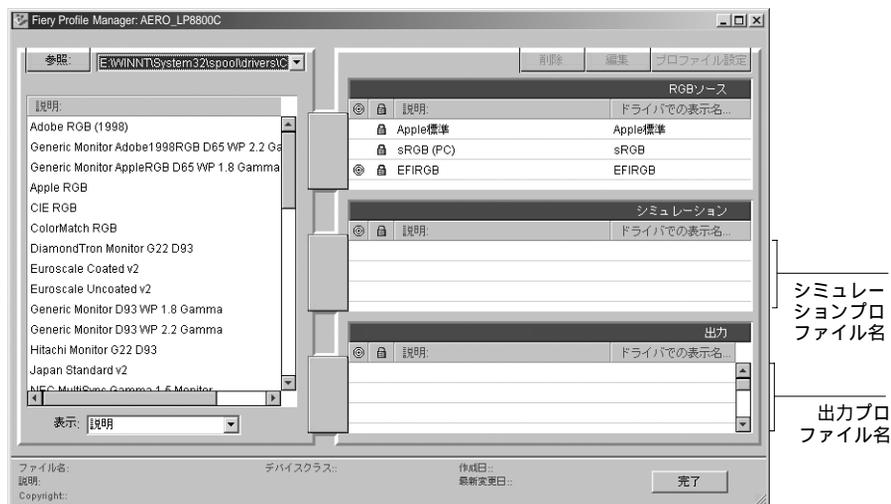
## デフォルトプロファイル設定

Fiery ColorWise Pro Tools では「RGB ソースプロファイル」、「シミュレーションプロファイル」、「CMYK シミュレーション方法」、「RGB 色分解」オプションなどのデフォルト値を設定できます。これらのデフォルト値は、Fiery Spark Pro 「設定」でも設定可能です。

ユーザがプリンタドライバから「プリンタの初期設定」を選択した場合、Fiery Spark Pro に送られた印刷ジョブにはデフォルトプロファイルが適用されます。このため、デフォルトプロファイルには、最も頻繁に使用されるプロファイルを設定しておく必要があります。

デフォルトプロファイルを指定するには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、「Profile Manager」をクリックします。



画面の左側には、コンピュータのデフォルトディレクトリ内の ICC プロファイル名が一覧表示されます。右側には、Fiery Spark Pro 内蔵の 3 つに分類されたプロファイルが表示されます。

ロック「」アイコン付きのプロファイルは削除できません。このプロファイルを編集した場合は、別名で保存する必要があります。シミュレーションと出力プロファイルのみ編集可能です。

備考：プロファイル名の左端に小さなアイコンの付いているプロファイルは、デフォルトプロファイルです。他のプロファイルをデフォルトとして設定すると、新しくデフォルトとして設定されたプロファイルの名称の左側に、アイコンが表示されます。RGB ソースプロファイルと出力プロファイルのデフォルトには、「」のアイコンが付いています。シミュレーションプロファイルのデフォルトは、RGB 色分解の設定によってアイコンが異なります。「RGB 色分解」が「シミュレーション」の場合は「」、「出力」の場合は「」が表示されます。

2. デフォルトに設定するプロファイルを選択し、「プロファイル設定」をクリックします。

3. プロファイル設定用ダイアログボックスで「デフォルト」を選択し、「OK」をクリックします。



備考：シミュレーションプロファイルの場合は上の画面が表示されます。RGB ソースプロファイルまたは出力プロファイルの場合は、多少画面が異なります。

Profile Manager 画面の新デフォルトプロファイルの左横にターゲットアイコンが表示されます。

RGB ソースプロファイルのデフォルトが設定されていない場合、プリントオプションの RGB ソースプロファイルは「なし」に設定されます。シミュレーションプロファイルのデフォルトが設定されていない場合、プリントオプションの CMYK シミュレーションは「なし」に設定されます。プリントオプションの詳細は、「第 1 章：Fiery Spark Pro カラー管理オプション」を参照してください。

出力プロファイルには、必ずデフォルトがあります。定義済みのプロファイルを選択して、「プロファイル設定」をクリックすると、選択したプロファイルをデフォルトに設定できます。デフォルトにするプロファイルの「出力プロファイル設定」ダイアログボックスの「プロファイルの説明」欄で、「デフォルト」を選択してください。定義済みのプロファイルに、「キャリブレーションセット使用」欄でキャリブレーションセットを指定し、「プロファイルの説明」で新しい名前を付けると、新しいデフォルトを作成できます。

備考：ロック「」アイコン付き出力プロファイルを「プロファイルの説明」で指定し、定義済みカスタムプロファイル名（「出力 -1」～「出力 -10」）と関連づけると、「出力プロファイル」プリントオプションとしてプリンタドライバで選択できます。操作手順は、ダウンロードされたプロファイルあるいは編集されたプロファイルを、印刷ジョブに適用する場合と同じです。詳細は、3-16 頁「カスタムプロファイルの関連づけ」を参照してください。

## プロファイルのダウンロード

Fiery Spark Pro 提供のプロファイルは Fiery Spark Pro にあらかじめインストールされています。さらに、追加プロファイルを適宜ネットワーク上のコンピュータから Fiery Spark Pro にダウンロードできます。

---

プロファイルをダウンロードするには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、「Profile Manager」をクリックします。  
画面の左側にはコンピュータのデフォルトディレクトリ内の ICC プロファイル名が一覧表示されます。  
デフォルトディレクトリは以下のとおりです。
  - Windows 98/Me - %Windows%System%Color
  - Windows NT 4.0 - %Winnt%System32%Color
  - Windows XP - %Windows%System32%Spool%Drivers%Color
  - Windows 2000/XP - %Winnt%System32%Spool%Drivers%Color
  - Mac OS 9.x - システムフォルダ:ColorSync プロファイル( ColorSync 2.5 以降 ) またはシステムフォルダ:初期設定:ColorSync 特性 ( ColorSync 2.0 )
2. 該当するプロファイルが一覧に表示されない場合は、別のディレクトリ内を探すために「参照」をクリックします。  
Mac OS では ICC プロファイルは前記のデフォルトディレクトリ内にインストールされている必要があります。
3. 「ディレクトリの選択」ダイアログボックスで、該当するプロファイルが格納されているディレクトリを探し、「OK」をクリックします。
4. Profile Manager 画面でダウンロード対象のプロファイルを選択します。  
選択されたプロファイルが Fiery Spark Pro と互換性がある場合は、「ダウンロード可能なプロファイル」欄の矢印が緑色になります。「シミュレーション」と「出力」にダウンロードできるプロファイルは、プリントデバイスプロファイルのみです。「RGG ソース」にダウンロードできるプロファイルは、入力デバイスプロファイルのみです。

注意：Windows の場合は、プロファイル名の最後に「.icc」または「.icm」の拡張子がついていないと表示されません。Mac OS では、プロファイルが適切なファイル形式でないと表示されません。

注意：選択されたディレクトリ内のすべての ICC プロファイルが Profile Manager 画面の左側に表示されますが、表示されたプロファイルがすべて Fiery Spark Pro にダウンロードできるとは限りません。

シミュレーションプロファイルは、別のプリントデバイスからの出力を想定して Fiery Spark Pro から出力する場合に使用するプロファイルです。出力プロファイルは、Fiery Spark Pro に接続しているプリントデバイスのプロファイルです。

CMYK プリンタのプロファイルは、シミュレーションプロファイルとしても、出力プロファイルとしてもダウンロードできますが、用途を考慮してダウンロードしてください。Fiery Spark Pro を使用して、別のプリンタの出力と同様の出力を得たい場合は、シミュレーションプロファイルとしてダウンロードします。Fiery Spark Pro に接続されたプリンタのカスタムプロファイルをダウンロードする場合は、出力プロファイルとしてダウンロードします。

5. 緑色の矢印をクリックしてプロファイルをダウンロードし、ダウンロードが終了したら「OK」をクリックします。

ダウンロードされたプロファイルが Profile Manager 画面の右側に表示されます。

Windows では、プリンタドライバで「双方向通信」が選択してある場合、定義済みプロファイル名に関連づける必要がありません。

Mac OS では、プロファイルを印刷ジョブに適用する前に、定義済みプロファイル名（RGB ソース用：「ソース -1」～「ソース -10」、シミュレーション用：「シミュレーション -1」～「シミュレーション -10」、出力用：「出力 -1」～「出力 -10」）に関連づけておくか（3-16 頁参照）、またはデフォルトプロファイルとして設定しておく必要があります。

注意：ダウンロードされた出力プロファイルには、デフォルトとなっている出力プロファイルのキャリブレーションターゲットが適用されます。

## プロファイルの編集

特定のニーズやプリントデバイスの特性に応じて、Fiery Spark Pro 内蔵のプロファイルを Color Editor を使用してカスタマイズできます。プロファイルの編集の詳細については、3-2 頁「プロファイルの編集」を参照してください。

## プロファイルの管理

Profile Manager を使用してプロファイルのバックアップや削除をすることができます。Fiery Spark Pro ソフトウェアを更新する前に、必ずカスタムプロファイルのバックアップを行ってください。

注意： Profile Manager 画面でロックアイコンの付いていないプロファイルは、削除またはバックアップができます。ロックアイコンの付いているプロファイルは削除できませんが、ほとんどの場合バックアップは可能です。

---

プロファイルのバックアップを作成するには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、「Profile Manager」をクリックします。
2. Fiery Spark Pro 内蔵のプロファイルから、バックアップ対象のプロファイルを選択します。

Profile Manager 画面中央の矢印が緑色かつ左向きになります。これによりプロファイルがアップロード可能になったことがわかります。

3. 緑色の矢印をクリックし、保存先を指定したあと、「保存」をクリックします。アップロード終了のメッセージが表示されます。
4. 「OK」をクリックします。

誤使用を避けるため、および Fiery Spark Pro 内蔵ハードディスクの空き容量を増やすため、不適切なプロファイルは次の手順で削除してください。

---

Fiery Spark Pro 内蔵ハードディスクからプロファイルを削除するには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、「Profile Manager」をクリックします。
2. Fiery Spark Pro 内蔵のプロファイルから、プロファイルを選択し「削除」をクリックします。

削除する確認のメッセージが表示されます。

注意： Fiery Spark Pro 提供のプロファイル、定義済みカスタム名に関連づけられているプロファイル（たとえば「シミュレーション-1」） およびデフォルトに設定されているプロファイルは削除できません。

3. 「はい」をクリックします。

カスタムプロファイルに関連づけてあるプロファイル、またはデフォルトに設定されているプロファイルを削除したい場合は、「プロファイル設定」をクリックし、デフォルト設定を解除してから削除します。

## カスタムプロファイルの関連づけ

Windows では、プリンタドライバで「双方向通信」が選択されている場合、すべてのプロファイルが、実際の名称でプリンタドライバに表示されます。プリンタドライバにサーバからアップデートされたリストを得る機能がなくても、PPD から、各印刷ジョブに対してプロファイルを選択できます。

Mac OS では、ダウンロードされたプロファイルあるいは編集されたプロファイルを、印刷ジョブに適用するには、そのプロファイルを定義済みカスタム名に関連づけておく必要があります。プロファイルの種類ごとに、定義済みカスタム名が10個用意されています（RGB ソース用：「ソース -1」～「ソース -10」、シミュレーション用：「シミュレーション -1」～「シミュレーション -10」、出力用：「出力 -1」～「出力 -10」）。

次にカスタムシミュレーションプロファイルを例にとって手順を説明します。カスタム出力プロファイル、またはダウンロードした出力プロファイルの関連づけも同じ手順で行えます。

---

プロファイルに関連づけるには：

1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、「Profile Manager」をクリックします。  
「シミュレーション」プロファイル欄に、ダウンロードされたばかり、または Color Editor で作成されたばかりのカスタムプロファイル（たとえば「DIC-new」）（3-2 頁参照）が表示されます。「ドライバでの表示名」欄には何の情報も表示されていません。
2. Fiery Spark Pro 内蔵のプロファイルから、定義対象のプロファイル（「DIC-new」）を選択し、「プロファイル設定」をクリックするか、プロファイル名をダブルクリックします。

3. 「ドライバでの表示名」を選択し、ポップアップメニューからカスタムシミュレーション名（「シミュレーション -1」～「シミュレーション -10」）を選択後、「適用」をクリックします。

他のプロファイルに関連づけられていないカスタム名を選んでください。関連づけ済みのカスタム名を選択すると、エラーメッセージが表示されます。

出力プロファイルの場合、定義済みの名称は、「出力 -1」～「出力 -10」です。

注意：Fiery Spark Pro 提供のプロファイルを削除することはできませんが、「ドライバでの表示名」で、編集済みのプロファイルに Fiery Spark Pro 提供のプロファイルの名称を付けて書き換えることは可能です。

備考：ロックアイコン付き出力プロファイルを「プロファイルの説明」で指定し、定義済みカスタムプロファイル名（「出力 -1」～「出力 -10」）と関連づけると、「出力プロファイル」プリントオプションとしてプリンタドライバで選択できます。



出力プロファイルを定義する場合は、「出力プロファイル設定」ダイアログボックスに「キャリブレーションセット使用」欄が表示されます。プロファイルをジョブに適用する前に、このキャリブレーションセットでFiery Spark Proのキャリブレーションを行う必要があります。表示されたキャリブレーションセットで測定を行わない場合、デフォルトの測定値が適用されます。キャリブレーションセットの詳細は、2-2 頁を参照してください。

プロファイル設定で、ロックされていないプロファイルの「プロファイルの説明」を変更できます。

4. 「OK」をクリックします。

「DIC-new」の「ドライバの表示名」欄に、関連づけたカスタム名が表示されます。プリンタドライバの「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションでこのカスタム名（「シミュレーション-1」）を選択すると、印刷ジョブに「DIC-new」シミュレーションが適用されます。

カスタムシミュレーションプロファイルを定義済みのカスタム名に関連づけない場合、ジョブを出力する際、CMYK シミュレーションが「なし（キャリブレーションあり）」で出力されます。カスタム RGB ソースプロファイル、または出力プロファイルが、定義済みカスタム名と関連づけられていない場合は、デフォルトのプロファイルが適用されます。

## Spot-On

「スポットカラーマッチング」オプションで「オン」を選択すると、Fiery Spark Pro は、スポットカラーを CMYK 値に近づけて、プリンタの CMYK 各色のトナーを使用して、スポットカラーを再現できます。ところが場合により、デフォルト値を調整しさまざまなニーズに対応したスポットカラー用 CMYK 値を得る必要もでてきます。

Spot-On では、スポットカラーとその CMYK 値を管理できます。スポットカラーとその CMYK 値の一覧をスポットカラー辞書と呼びます。Spot-On では複数のスポットカラー辞書を管理でき、また各出力プロファイル用にそれぞれ一つのスポットカラー辞書を使用できます。

注意： Spot-On 定義の CMYK 値を使用するには、「スポットカラーマッチング」オプションを使用できるように設定しておく必要があります（1-3 頁参照）。

### Spot-On の起動

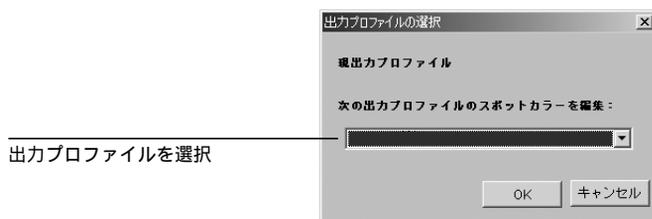
Spot-On は Fiery ColorWise Pro Tools から起動します。

Spot-On ではまず出力プロファイルを指定してから、それに関連づけるスポットカラー辞書を編集します。ただし、スポットカラー編集のどの時点でも別の出力プロファイルに変更できます。

注意： 一度に 1 人のユーザのみ Spot-On を使用できます。

Spot-On を起動するには：

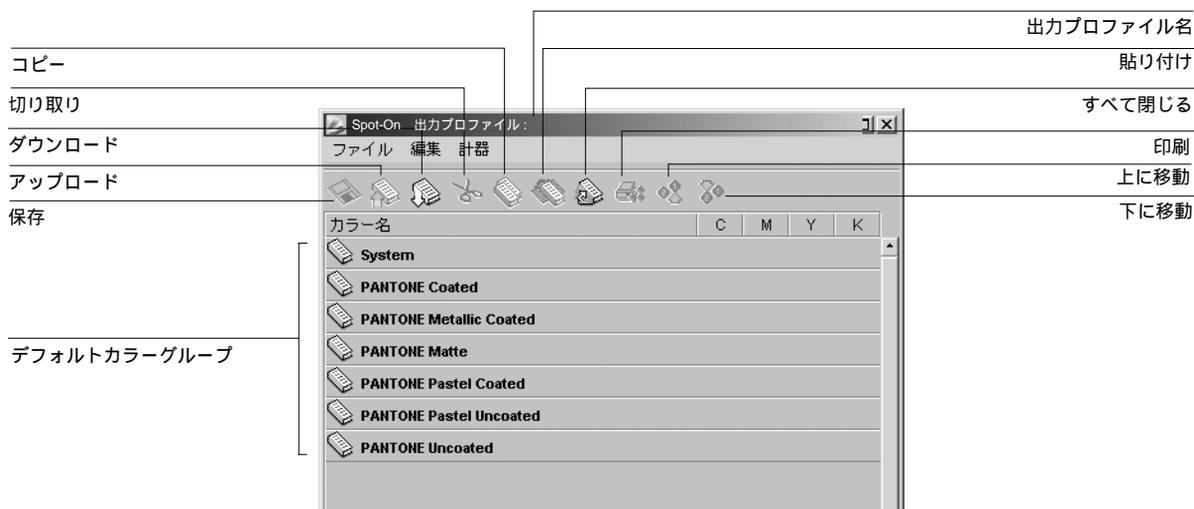
1. Fiery ColorWise Pro Tools を起動し、「Spot-On」をクリックします。
2. 「出力プロファイルの選択」ダイアログボックスでプロファイルを選択し、「OK」をクリックします。



備考：Spot-On 画面に表示される CMYK 値は、ここで指定した出力プロファイル用に換算されています。

## Spot-On の使用

Spot-Onのメイン画面にはFiery Spark Pro上のスポットカラーライブラリのカラーグループが一覧表示されます。画面上部には、各種ツールが表示されます。



Fiery Spark Pro ではデフォルトで、システムカラーライブラリと複数のPANTONE カラーライブラリが提供されています。これらのカラーライブラリにはデフォルトを示すアイコン「」が表示されます。

Spot-On ではカスタムのカラーまたはグループを追加できます。追加グループにはカスタムグループアイコン「」が表示されます。グループ内のカラーは、デフォルトグループ、カスタムグループともに、カラーグループを開くことにより表示できます。

---

カラーグループを開閉するには：

1. カラーグループを開くには、グループ名左側のアイコンをクリックします。  
グループ名右側のブランクエリアをダブルクリックして開くこともできます。カラーグループを開くと、グループ内の全カラーが表示されます。
2. カラーグループを閉じるには、グループ名左側のアイコンをクリックするか、またはグループ名右側のブランクエリアをダブルクリックします。
3. 一覧内の全カラーグループを閉じるには「編集：すべて閉じる」を選択するか、またはツールバー内のアイコンをクリックします。

## 既存カラーの編集

Spot-On を使用すると、Fiery Spark Pro 上の既存カラーグループを表示し、管理できます。Spot-On 内の特定カラーを検索して定義することもできます。

Spot-On 内のカラーグループはその優先順位に従って表示されます。優先順位の高いカラーグループが一覧の上部に表示されます。たとえば、異なるグループ内の異なるカラーに同じ名前が付けられている場合、Fiery Spark Pro は一覧内で上に表示されているグループ内のカラーを使用します。カラーの優先順位を管理することにより、同一のスポットカラーに対し複数のCMYK値を割り当てられます。

---

カラーの優先順位を替えるには：

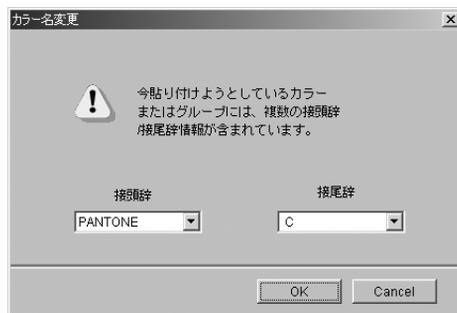
1. カラーグループ全体の優先順位を替えるにはそのグループを、個々のカラーの優先順位を替えるにはそのカラーを選択します。

備考：個々のスポットカラーには丸いカラーアイコンが表示されます。

2. 選択したカラーグループ、または選択したカラーを上下に移動するには、ツールバー上の「上に移動」/「下に移動」アイコンをクリックします。
3. 選択したカラーグループ、または選択したカラーを一覧内の別の場所に移動するには、ツールバーの「切り取り」/「コピー」アイコンをクリックしてから、一覧内の移動先をクリックしツールバーの「貼り付け」アイコンをクリックします。

注意：「切り取り」機能はカスタムカラーにのみ使用できます。

カラーグループにより、デフォルトカラーまたはグループを貼り付けると名前変更を促すメッセージが表示されます。その場合は、新しい名前前で保存するための接頭辞 / 接尾辞を選択し「OK」をクリックします。新しい名前のカスタムカラー、またはグループが貼付けられます。



特定のカラーを検索するには：

1. 「編集：検索」を選択します。
2. カラー名を入力し、「OK」をクリックします。  
Spot-On は入力されたカラー名を一覧の上部から検索します。検索が終了すると、見つかったカラー名がハイライトされ表示されます。
3. 同じ条件で別のカラーを検索するには、「編集：再検索」を選択します。

## カスタムカラーの作成

Spot-On ではデフォルトで提供されている PANTONE や DIC に加え、ユーザ定義のカスタムスポットカラーまたはグループを追加できます。

新しいカラーまたはグループを追加するには：

1. 一覧の追加したい場所で、カラーまたはグループ行を選択します。
2. カラーまたはグループ行を選択します。
3. カラーを追加するには「編集：新カラー」を、グループを追加するには「編集：新グループ」を選択します。

新しいカラーまたはグループが表示されます。

カスタムカラーまたはグループの名称を変更するには：

1. カラーまたはグループ名を選択します。



2. カラーまたはグループ名をクリックします。
3. アルファベットの大文字小文字やスペースなども含め、印刷ジョブ内で定義されているとおりに、新しい名称を入力します。

注意：PANTONE などのデフォルトカラーまたはグループは、名称を変更できません。

## カスタムカラーグループのダウンロード

Spot-On ではカスタムカラーグループを Fiery Spark Pro にダウンロードできます。ダウンロードされたカラーグループは、Spot-On の一覧にカスタムカラーグループとして表示され、Fiery Spark Pro 上で使用できます。

---

カスタムカラーグループをダウンロードするには：

1. 一覧内でカラーグループを追加したい場所の行を選択します。
2. 「ファイル：ダウンロード」を選択します。
3. ダウンロードするカラーグループを選択し、「開く」をクリックします。

ダウンロードされたカラーグループが Spot-On の指定場所に追加されます。ダウンロード場所を指定しなかった場合は、カラーグループは一覧の最上部に追加されます。

ダウンロードしたカラーグループの名称が既存グループと同一の場合は、ダウンロードしたカラーグループの名称を変更するように促されます。

## カスタムカラーグループのアップロード

カスタムカラーグループを ICC ファイルとして、Fiery Spark Pro からコンピュータにアップロードできます。この機能により、コンピュータ経由でカラーグループを他の Fiery Spark Pro にダウンロードし共有できます。

カラーグループをアップロードするには、まずそのグループを Fiery Spark Pro に保存する必要があります。デフォルトカラーグループの場合は、まずそのグループをコピーしカスタムグループとして貼り付けてからアップロードする必要があります。

---

カスタムカラーグループをアップロードするには：

1. アップロード対象のカラーグループを選択します。
2. 「ファイル：アップロード」を選択します。
3. ファイルの格納場所を指定し、ファイル名を入力し「保存」をクリックします。

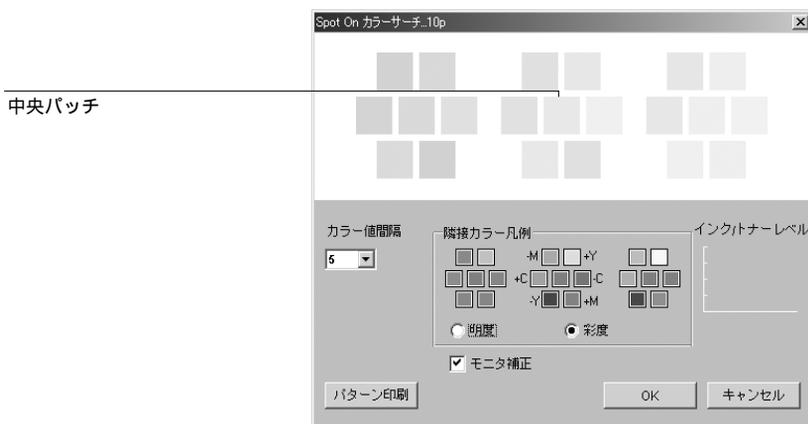
## カラー値の編集

Spot-On のカラーサーチ機能により、特定スポットカラーをプリンタで再現するための正しい CMYK 値を定義できます。既存スポットカラーが予想通りに出力できない場合は、そのカラー値を編集し期待するカラーに近づけられます。近似カラーをベースにし最良カラーになるまでその色相、彩度、明度を変更できます。

カラーサーチ機能を使用しターゲットカラーを定義するには：

1. カラーグループ内で、カラーアイコンを選択し「編集：カラーサーチ」を選択、またはカラーアイコンをダブルクリックします。

現在選択されているカラーが中央パッチとして画面に表示されます。



2. ターゲットカラーにより近い隣接カラーがある場合、そのカラーパッチをクリックし中央パッチに指定します。

備考：隣接パッチは中央パッチの明度または彩度を調整したバリエーションです。ある隣接パッチがターゲットカラーにより近い場合は、その隣接パッチを選択し中央パッチとして指定できます。隣接パッチをクリックするとそのカラーが中央パッチとして表示され、隣接パッチもそれにつれて更新されます。

注意：選択カラーにより、画面右上に感嘆符アイコン「！」が表示されるものがあります。このアイコンは、中央パッチカラーがプリンタの色の範囲境界上またはその境界外にあり、正しく再現されない可能性があることを示しています。その場合は色の範囲外カラーではなく、色の範囲内の最近似カラーを使用することをおすすめします。

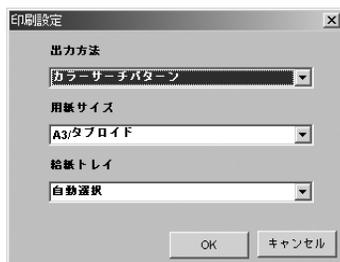
ターゲットカラーを定義するには、中央パッチをクリックしCMYK値を直接入力する方法もあります。

3. 「隣接カラー凡例」欄で、明度または彩度を選択します。

「明度」を選択すると、オリジナルカラーの明度をより暗いカラーからより明るいカラーに調整した隣接パッチが生成されます。このバリエーションではより暗いカラーが左、オリジナルカラーが中央、より明るいカラーが右に表示されます。

「彩度」を選択すると、オリジナルカラーの彩度をより低いカラーからより高いカラーに調整した隣接パッチが生成されます。このバリエーションではより低いカラーが左、オリジナルカラーが中央、より高いカラーが右に表示されます。

4. 「カラー値間隔」では、隣接パッチ間のカラー値間隔を指定します。  
高い値に設定すると、中央パッチカラーと大きく異なる隣接パッチが生成されます。ターゲットカラーに近づけるためには、カラー値間隔を小さく設定することをおすすめします。
5. カラーパッチの印刷カラーをスクリーン上でシミュレートする場合は、「モニタ補正」を選択します。  
このシミュレーションは、表示用に設定されたモニタプロファイルによって変わります。モニタプロファイルを指定するには、Spot-On メイン画面で「編集：環境設定」を選択してください。
6. ターゲットカラーが中央パッチとして表示されるまで、カラーパッチの明度または彩度を調整し隣接パッチをクリックします。
7. 「パターン印刷」をクリックします。



8. 「印刷設定」ダイアログボックスで、適切な項目を指定します。  
「出力方法」では「カラーサーチパターン」または「隣接カラーパターン」のいずれかを選択します。「カラーサーチパターン」を選択すると、「カラーサーチ」画面に表示されたものと同じパターンのパッチを印刷します。「隣接カラーパターン」を選択すると、3列x8行形式でパッチを印刷します。  
「用紙サイズ」ではパッチ印刷に使用する用紙のサイズを指定します。  
備考：より正しい測定結果を得るには、「用紙サイズ」で「A4/レター」を選択することをおすすめします。  
「給紙トレイ」ではパッチ印刷に使用する用紙の入ったトレイを指定します。

9. 「OK」をクリックします。

「パターン印刷」で印刷したページには次の情報が含まれています。

- カラー名
- 隣接パッチ用の明度または彩度の選択結果
- カラー値間隔
- 中央パッチ / オリジナルカラーの CMYK 値
- 日時
- 名称付きカラープロファイル
- 指定した出力プロファイル名

カラーサーチ機能の目的は、印刷カラーがターゲットカラーにマッチするカラーを見つけ出すことであり、スクリーン上でターゲットカラーをシミュレートすることではありません。「パターン印刷」から隣接パッチを含むパッチページを印刷することにより、印刷パッチの中からターゲットカラーにマッチするパッチを選択でき、そのパッチに対応したスクリーン上のパッチをターゲットカラーとして指定できます。

10. 「Spot-On カラーサーチ」ダイアログボックスでターゲットカラーを選択し、「OK」をクリックします。

編集済みカスタムカラーがカラーグループ内に表示されます。

---

CMYK 値入力でターゲットカラーを定義するには：

1. 「Spot-On カラーサーチ」ダイアログボックスで中央パッチをクリックします。



2. CMYK 値の入力方法を選択します。

「パーセント」選択では、0.5% 間隔で「0」から「100」までの値を入力できます。小数点第2桁以下の値は繰り上げられます。

「デバイスコード」選択では、「0」から「255」までの範囲でCMYK値を入力できます。このオプションでは、Fiery Spark Pro で再現できるカラー値範囲を使用し、「0」から「100」に比べより詳細な設定ができるため、微調整を行えます。

3. ターゲットカラーのCMYK値をそれぞれ入力します。

備考：新しいカラー値を入力すると、プレビューパッチで新旧カラーが更新表示されます。

4. 「OK」をクリックします

新カスタムカラーが「Spot-On カラーサーチ」ダイアログボックスに中央パッチとして表示されます。

## ターゲットカラー測定用計器の使用

EFI Spectrometer を使用できる場合は、その測定値を直接 Spot-On にインポートできます。この機能により、印刷されたロゴの赤やパッケージの黄など実際の印刷カラーをインポートし、Spot-On でターゲットカラーとして指定します。

備考：EFI Spectrometer は EFI 社製の分光計です。

### EFI Spectrometer の使用

EFI Spectrometer の使用方法の詳細については、EFI Spectrometer の取扱説明書を参照してください。

---

測定値を Spot-On にインポートするには：

1. EFI Spectrometer 用ソフトウェアがインストールされ、EFI Spectrometer が接続され設定済みであることを確認します。

インストレーションと設定の詳細については、「付録 A」および EFI Spectrometer の取扱説明書を参照してください。

2. 「計器：開始」を選択します。
3. 「計器を選択」ダイアログボックスで、適切な項目を選択します。

「計器」欄では EFI Spectrometer を選択します。

4. 「OK」をクリックします。

備考：EFI Spectrometer が Spot-On に接続されると、計器のインジケータランプがしばらく点滅します。点滅が終了すると、EFI Spectrometer の測定準備が完了したことを表します。

5. EFI Spectrometer のアパーチャを測定対象の上に置き、測定ボタンを押します。

測定カラーの CMYK 値が以下のルールで Spot-On にインポートされます。

- Spot-On メイン画面であるカラーが選択されている場合は、新測定カラーに更新されます。
- Spot-On メイン画面でグループが選択されている場合は、新測定カラーがそのグループ内に追加されます。
- 「Spot-On カラーサーチ」画面が表示されている場合は、中央パッチが測定カラーに更新され、それに伴って隣接パッチも更新されます。
- 「中央パッチカラー設定」ダイアログボックスが開いている場合は、測定カラーの CMYK 値が C、M、Y、K 各欄にインポートされます。

6. 測定が終了したら、「計器：終了」を選択します。

Spot-On は EFI Spectrometer との接続を解除します。

## 変更の保存と Spot-On の終了

編集または作成したスポットカラーを Fiery Spark Pro で使用可能にするには、Spot-On を終了する前にそれらを保存する必要があります。保存することにより、Spot-On カラーライブラリのすべての定義変更が Fiery Spark Pro に格納されるため、ジョブ印刷の際にそれらのスポットカラーを使用できます。

ただし以下の変更は保存を実行する必要はありません。

- カラーまたはカラーグループの優先順位の変更
- カラーまたはカラーグループのダウンロード
- カラーまたはカラーグループの消去

Spot-On での変更を保存するには：

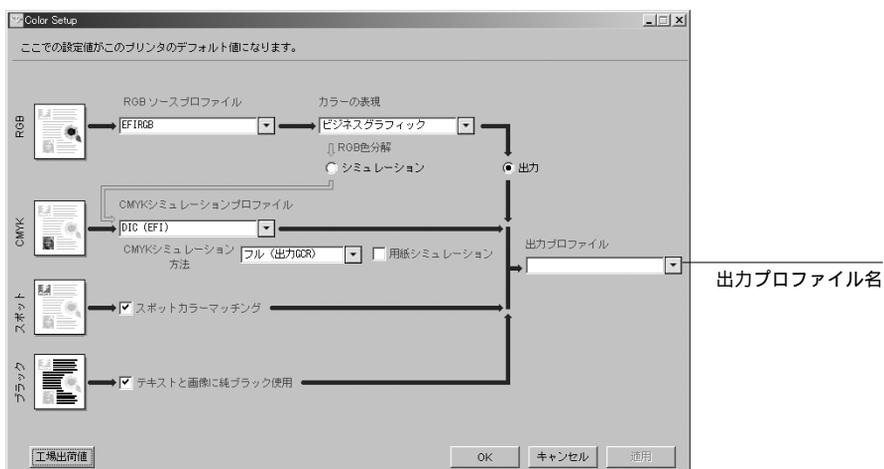
1. 「ファイル：保存」を選択します。
2. 「ファイル：閉じる」を選択、または Spot-On メイン画面右上部の「閉じる」ボタンをクリックし、Spot-On を終了します。

## Color Setup

Color Setup は、カラー管理用 ColorWise オプションのデフォルト値を設定 / 変更するために使用します。Color Setup では、Fiery Spark Pro でジョブのカラー変換がどのように行われるかが分かりやすく図解されていて、デフォルト値を設定 / 変更できます。

### ColorWise オプションのデフォルト設定

Color Setup を起動するには、Fiery ColorWise Pro Tools のメイン画面で「Color Setup」をクリックします。



プリンタドライバまたは Command WorkStation、Fiery Spooler から個別のジョブに対するオプション設定を書き換えない限り、Fiery Spark Pro から出力するすべての印刷ジョブに、ここでの ColorWise オプション設定が適用されます。

Profile Manager でのデフォルトプロファイル変更は、自動的に Color Setup に反映されます。また、Color Setup でのデフォルト値を変更すると、自動的に Fiery Spark Pro に反映されます。

Color Setup 画面を閉じるには「OK」を、開いたままにしておくには「適用」をクリックします。「OK」または「適用」をクリックすると変更が有効になります。「キャンセル」をクリックすると、変更内容は適用されず Color Setup の画面が閉じます。

通常は、製品出荷時のデフォルト設定のまま、適切なカラー出力が得られます。ColorWise オプションの設定を製品出荷時の初期設定値に戻すには、Color Setup 画面左下の「工場出荷値」をクリックします。

## 付録 A : カラー測定計器

本付録では、EFI Spectrometer、X-Rite DTP32、X-Rite DTP41 の使用方法について説明します。

備考：EFI Spectrometer は EFI 社製の手動分光測色計です。

### EFI Spectrometer の使用

EFI Spectrometer は、カラー印刷物などの反射スペクトルを測定する分光測色計です。EFI Spectrometer は印刷物の濃度とカラーを手のひらで動かしながら手軽にまた正確に測定できるため、Fiery Spark Pro のキャリブレーションに大変効率的なツールです。

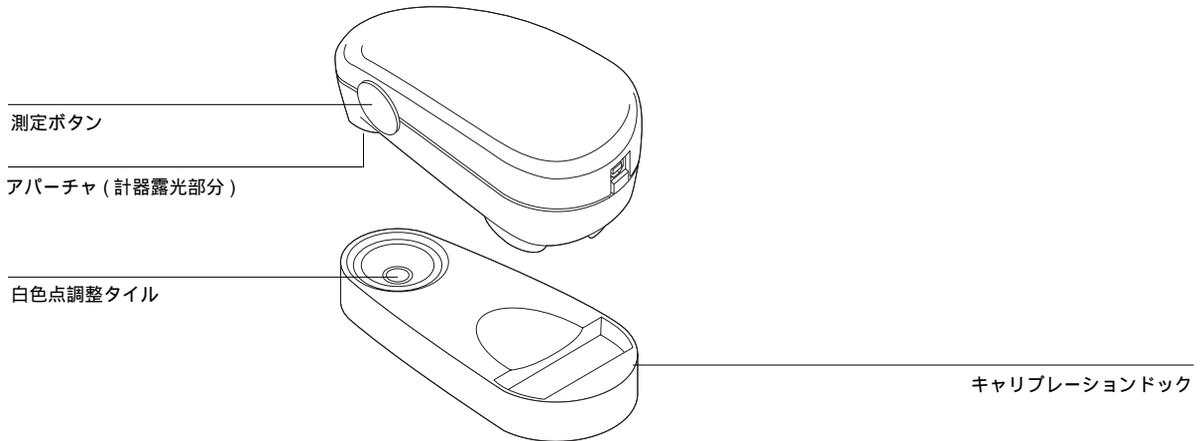
注意：Macintosh コンピュータの場合は、USB ポート装備のコンピュータを使用し測定してください。

注意：EFI Spectrometer は Windows NT 4.0 ではサポートされていません。

### EFI Spectrometer の設定

EFI Spectrometer を Fiery Spark Pro キャリブレーションに使用する前に、コンピュータに接続し設定しておく必要があります。EFI Spectrometer の設定と調整の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

次図は EFI Spectrometer の構成部分を示しています。



- アパーチャ 計器の露光部分の位置を示しています。
- 測定ボタン このボタンを押して測定処理を開始します。
- 白色点調整タイル、キャリブレーションドック EFI Spectrometerw をキャリブレーションドックに置くことにより、EFI Spectrometer の白色点調整が行われます。

## X-Rite DTP32 の使用

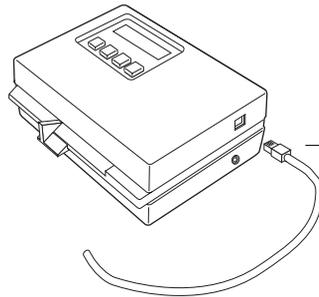
X-Rite DTP32 は、カラー印刷物などの濃度を測定する反射濃度計です。X-Rite DTP32 は X-Rite, Inc. から入手できます。

## X-Rite DTP32 の設定

X-Rite DTP32を Fiery Spark Proキャリブレーションに使用するためには、コンピュータに接続し設定しておく必要があります。X-Rite DTP32の設定と使用方法の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

X-Rite DTP32 を接続するには：

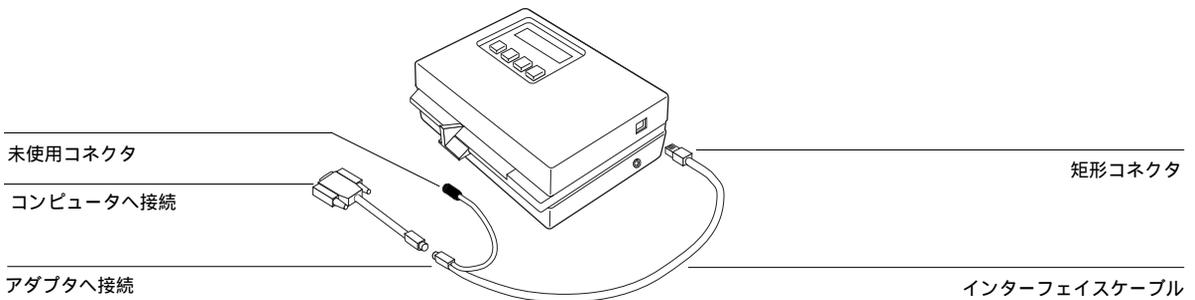
1. コンピュータの電源を切ります。
2. インターフェイスクーブルの矩形コネクタ（モジュラー方式電話プラグに似ています）を X-Rite DTP32 の側面にある I/O ポートに差し込みます。



矩形コネクタ

3. コンピュータにコネクタを接続します。

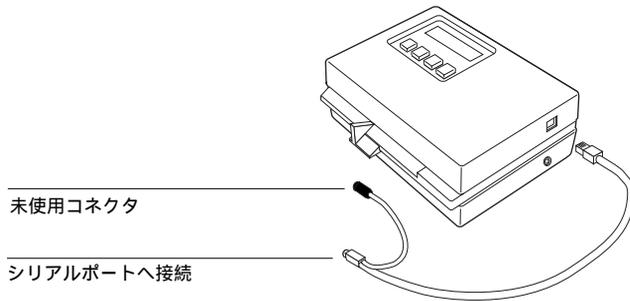
Windows 対応コンピュータでは、インターフェイスクーブルの 8 ピンミニ DIN コネクタをケーブルアダプタの 9 ピン DB9 コネクタに接続します。次に 9 ピンコネクタをコンピュータの COM1 または COM2 ポートに接続し、ネジで固定します。コンピュータの未使用のポートが 25 ピンの場合は、8 ピンを 25 ピンに変換するアダプタを使用してください。



Macintosh コンピュータでは、丸型 8 ピンのミニコネクタをコンピュータ背面のプリンタポートまたはモデムポートに接続します。

# A

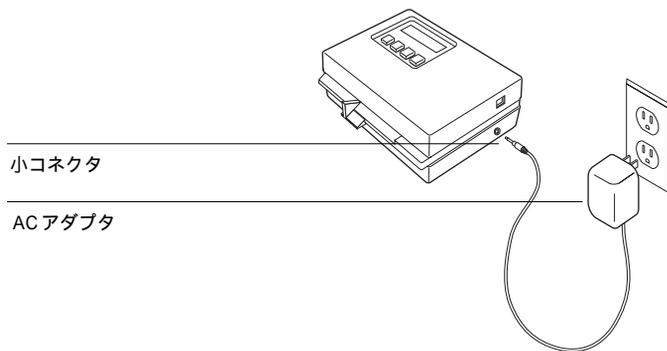
## A-4 カラー測定計器



注意：USBポートを装備している Macintosh コンピュータの場合は、市販の USB-シリアルアダプタが必要です。X-Rite 社の推奨とサポートについては、「[www.x-rite.com/](http://www.x-rite.com/)」を参照してください（「USB to serial adapter」での検索結果参照）

4. 別売の AC アダプタ（X-Rite DTP32 販売店で入手可能）を使って X-Rite DTP32 に電源を供給します。

AC アダプタケーブルの小さい方のコネクタを X-Rite DTP32 の側面に差し込み、アダプタを壁のコンセントに差し込みます。



5. コンピュータの電源を入れます。
6. X-Rite DTP32 を調整します（次項参照）



## X-Rite DTP32 の調整

X-Rite DTP32 を調整するには、X-Rite DTP32 付属の黒白 X-Rite Auto-Cal ストリップを使用します。X-Rite DTP32 の調整には Fiery ColorWise Pro Tools は必要ありません。

X-Rite DTP32 の調整は、少なくとも 1 ヶ月に 1 回は行ってください。出力カラーが重要な場合は、Fiery Spark Pro のキャリブレーションを行うたびに、X-Rite DTP32 も調整します。

---

X-Rite DTP32 を調整するには：

1. コンピュータに X-Rite DTP32 を接続し、電源を供給します (A-2 頁参照)。
2. X-Rite DTP32 のメインメニューで、「p1」キーを押します。  
「p2」が表示されます。
3. 「cal」キーを押します。  
キャリブレーションモータの速度が表示され、続いて「INSERT CAL STRIP」(Cal ストリップ挿入)が表示されます。
4. X-Rite DTP32 のローラが動き出すまで、X-Rite Auto-Cal ストリップの矢印の先を X-Rite DTP32 に挿入していきます。  
「READING」(読取中)が表示され、次に濃度値と「CALIBRATION OK」(調整 OK)が現れます。X-Rite DTP32 は、自動的にメインメニューに戻ります。  
「UNRECOGNIZABLE STRIP」(ストリップ不明瞭)が表示された場合は、ストリップの汚れを取ってください (X-Rite DTP32 の操作説明書参照)。

## X-Rite DTP41 の使用

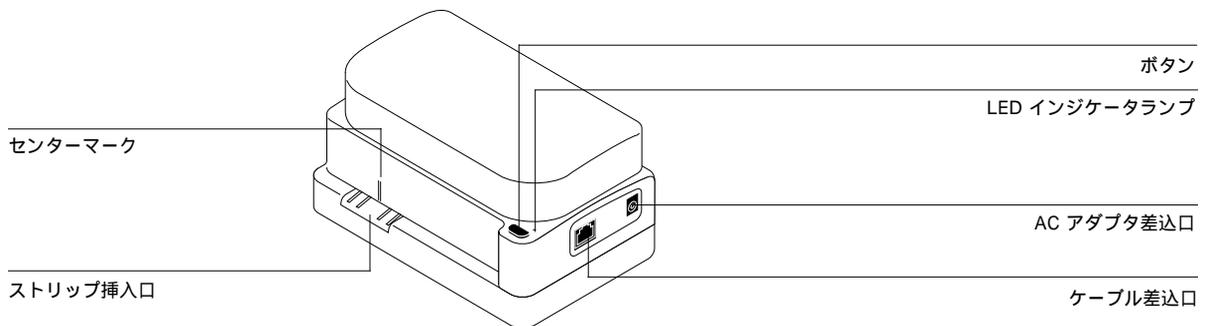
X-Rite DTP41 は、カラー印刷物などの反射スペクトルを測定する分光測色計です。X-Rite DTP41 は X-Rite, Inc. から入手できます。

### X-Rite DTP41 の設定

X-Rite DTP41 を Fiery Spark Pro キャリブレーションに使用する前に、コンピュータに接続し設定しておく必要があります。X-Rite DTP41 の設定と使用方法の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

X-Rite DTP41 を接続するには：

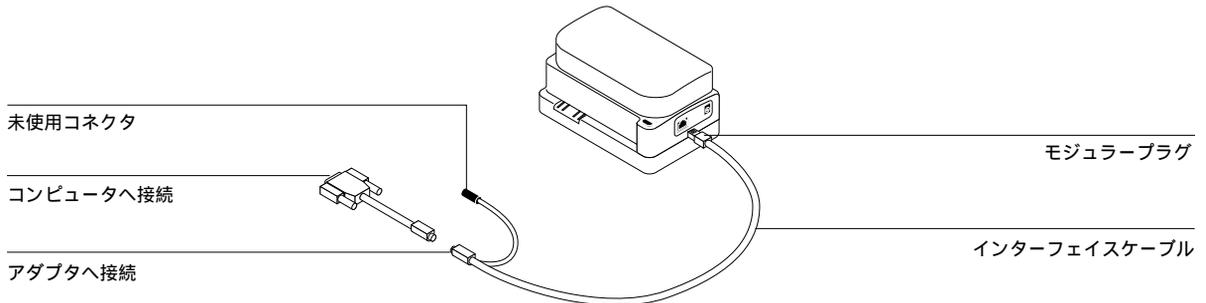
1. コンピュータの電源を切ります。
2. X-Rite DTP41 を取り出し、測定ページスロットに挟まれているスペーサ（梱包材）を取り除きます。
3. インターフェイスケーブルのモジュラープラグを、X-Rite DTP41 の側面にあるケーブル差込口に差し込みます。



## 4. コンピュータにコネクタを接続します。

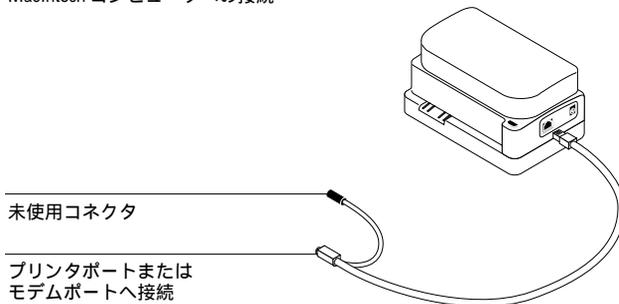
Windows 対応コンピュータでは、インターフェイスケーブルの 8 ピンミニ DIN コネクタを、ケーブルアダプタの 9 ピン DB9 コネクタに接続します。次に 9 ピンコネクタをコンピュータの COM1 または COM2 ポートに接続し、ネジで固定します。コンピュータの未使用ポートが 25 ピンの場合は、8 ピンを 25 ピンに変換するアダプタを使用してください。

Windows 対応コンピュータへの接続



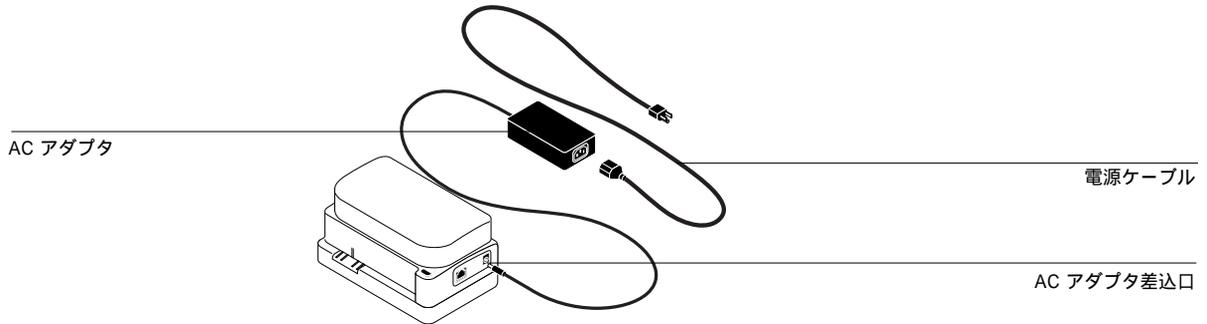
Macintosh コンピュータでは、丸型 8 ピンのミニコネクタをコンピュータ背面のプリンタポートまたはモデムポートに接続します。

Macintosh コンピュータへの接続



注意：USB ポートを装備している Macintosh コンピュータの場合は、市販の USB-シリアルアダプタが必要です。X-Rite 社の推奨とサポートについては、「[www.x-rite.com/](http://www.x-rite.com/)」を参照してください（「USB to serial adapter」での検索結果参照）。

5. X-Rite DTP41 付属の AC アダプタを使って X-Rite DTP41 に電源を供給します。AC アダプタのコネクタを X-Rite DTP41 の側面に差し込み、AC アダプタに電源コードを接続します。電源コードのもう一方の端を壁のコンセントに差し込みます。



6. コンピュータの電源を入れます。
7. X-Rite DTP41 を調整します (次項参照)

## X-Rite DTP41 の調整

出力カラーが重要な場合は、Fiery ColorWise Pro Tools で Fiery Spark Pro のキャリブレーションを行うたびに、X-Rite DTP41 を調整します。X-Rite DTP41 の調整が必要であることを警告するメッセージが表示される場合もあります。

Fiery ColorWise Pro Tools の Calibrator または X-Rite DTP41 のボタンを使用し調整を行います。Fiery ColorWise Pro Tools を使用して調整する方法は、次項を参照してください。X-Rite DTP41 のボタンを使用して調整する方法は、X-Rite DTP41 付属の取扱説明書を参照してください。

X-Rite DTP41 の調整には、X-Rite DTP41 付属のキャリブレーションストリップ(キャルストリップ)を使用します。キャルストリップは、付属の封筒に保管しほこりや汚れが付かないように注意してください。また、封筒から取り出したり使用する際はキャルストリップの端を持ってください。

---

X-Rite DTP41 を調整するには :

1. X-Rite DTP41 をコンピュータに接続し、電源を供給します (A-6 頁参照)。

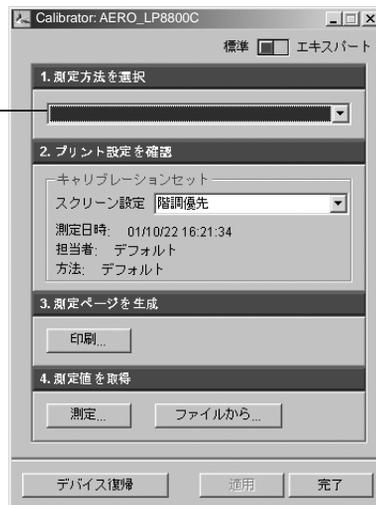
2. Fiery ColorWise Pro Tools を起動します。



Fiery ColorWise Pro Tools の Fiery Spark Pro への接続方法については、『インストールガイド』を参照してください。

3. 「Calibrator」をクリックします。
4. 「測定方法を選択」で「X-Rite DTP41」を選択します。

測定方法名

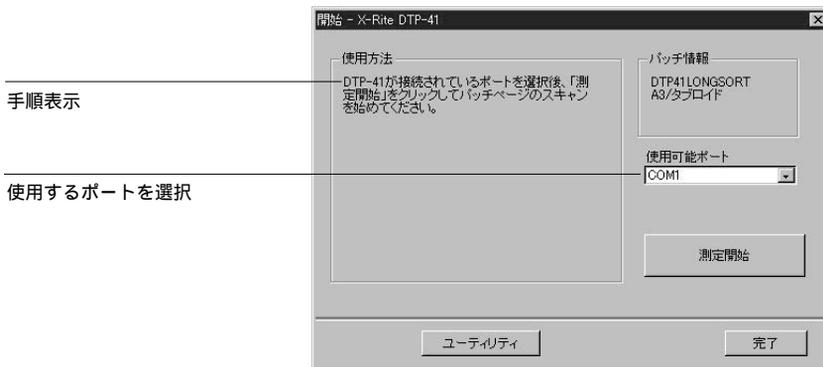


# A

5. 「測定値を取得」で「測定」をクリックします。
6. 「測定オプション」ダイアログボックスで、ページの種類と用紙サイズを選択し、「測定」をクリックします。



7. 「使用可能ポート」でポートを選択します。



X-Rite DTP41 の調整中は「使用方法」欄に手順が順次表示されます。

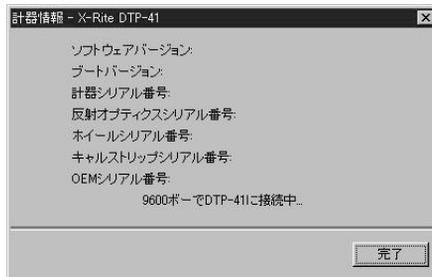
8. 「ユーティリティ」をクリックします。

9. 「DTP-41 キャリブレート」をクリックします。



このボタンをクリック

備考：バージョンやシリアル番号の情報を表示するには、「DTP-41 情報表示」をクリックします。情報を確認したら、「完了」をクリックし「計器情報」画面を閉じます。



10. スペースをまだ取り外していない場合は、測定ページスロットから取り外します。
11. キャリブレーションの矢印の付いている端を、キャリブレーション挿入口から挿入します。

キャリブレーションの中央をセンターマーク（A-6 頁の図参照）に合わせます。キャリブレーションがフロントローラーを通り抜けて、リヤードライブローラーにあたるまで、約 75mm 挿入します。

12. 「キヤルストリップ読み込み」をクリックします。



X-Rite DTP41 が自動的にキヤルストリップを引き込み、読み込みます。

13. 「完了」をクリックします。
14. 「ユーティリティ」画面を閉じます。

これで X-Rite DTP41 の調整が完了しました。

X-Rite DTP41 の調整が必要な場合、コンピュータに以下の画面が表示されます。



この画面が表示された場合は、「キヤリブレート」をクリックして、手順9以降を参照して X-Rite DTP41 の調整を行ってください。

## 付録 B： 測定値の取り込み

本付録では、測定値を取り込む際に利用できる SAIFF ( Simple ASCII Import File Format ) ファイルについて説明します。測定値は以下の形式でテキストファイルとして保存します。

### シンプル ASCII インポートファイルフォーマット (SAIFF)

Status T の測定データを Fiery ColorWise Pro Tools の Calibrator で読み込むために、SAIFF 形式のファイルを用意します。以下の 3 つのファイル形式があります。

- EFI 34 パッチページ用 1 D Status T 濃度
- EFI 21 パッチページ用 1 D Status T 濃度
- その他のページ (各トナーで最高 256 パッチまで) 用 1 D Status T 濃度

ファイルはタブなしの ASCII 形式です。データの区切りは、1 文字分のスペースでも複数スペースでもかまいません。各行に必ずデータが入るようにして、余分な改行は入れないでください。各行は、特定のトナーの値を 4 つのパッチ (CMYK) で表します。ファイル内の任意の行にコメントを入れられます。コメントのある行は「#」で始め、そのすぐ後にスペースを入れます。「#」で始まる行でそのすぐ後にスペースがない行には、コメントは入れられません。コメントの行にはコメント以外のデータは入れられません。

データの行には各々5つの値が入っています。最初の値は、EFI 34またはEFI 21のページではパッチ番号です。そのほかのページでは、トナーの%を表します。残りの4つの値は、そのパッチにおけるCMYKの濃度の値です。行は、パッチ番号またはトナーの%が、小さい番号から始まって順に大きくなるように並びます。

Windows ではファイル名に拡張子「.cm1」を付けます。Mac OS ではファイルをテキスト形式で保存します。

EFI 34、EFI 21 の測定データは用紙の種類によって異なります。そのほかのページでは、最初の行でトナーの値が0であれば、Calibrator は、測定値が絶対値であるものとみなし、2 行目以降のデータから最初の行の濃度を差し引いて用紙に合わせて調整します。

### EFI 34 パッチページの 1D Status T 濃度の例

このファイル形式は、EFI 34 パッチページの Status T 濃度測定値を指定する際に使用します。行の最初の番号はパッチの番号です。パッチは1から始まり34で終わります。

```
#EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST34
# Cyan Magent Yellow Black
1 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
2 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
3 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
( 途中省略 )
33 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
34 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

### EFI 21 パッチページの 1D Status T 濃度の例

このファイル形式は、EFI 21 パッチページの Status T 濃度測定値を指定する際に使用します。行の最初の番号はパッチの番号です。パッチは1から始まり21で終わります。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST21
# Cyan Magent Yellow Black
1 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
2 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
3 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
( 途中省略 )
20 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
21 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

### そのほかのページの 1D Status T 濃度の例

このファイル形式は、ユーザの選んだパッチページの Status T 濃度測定値を指定する際に使用します。行の最初の番号はパッチのトナーの % です。% は必ず 0 から始まり 100 で終わります。途中の % は小さい値から大きい値へ順に並びます。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST
# Cyan Magent Yellow Black
0.0000 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
0.3922 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
1.1765 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
( 途中省略 )
98.0000 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
100.0000 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```



# 索引

## 記号

8 ピンコネクタ A-4, A-7

9 ピンコネクタ A-3, A-7

## A

Apple 標準、RGB ソースプロファイル  
1-6

## B

BG ( Black Generation ) 1-6

## C

CALIB.PS ファイル 2-7, 3-9

Calibrator

エキスパートモード 2-6

Calibrator、ColorWise Pro Tools 2-9,  
2-13, 2-15

CMYK シミュレーションプロファイル  
1-3, 3-10

DIC 1-3

Euroscale 1-3

Japan Color 1-3

SWOP-Coated 1-3

TOYO-Coated 1-4

CMYK シミュレーション方法 1-5

クイック 1-5, 3-2

フル ( ソース GCR ) 1-5, 3-2

フル ( 出力 GCR ) 1-5, 3-2

Color Editor

プロファイルの編集 3-2

Color Setup 3-29

ColorSync カラーマッチング オプショ  
ン、PostScript プリンタドライバ 1-16

ColorWise Pro Tools

Calibrator 2-9, 2-13, 2-15

Color Setup 3-29

Profile Manager 3-10

Spot-On 3-18

キャリブレーション状況の確認 2-4

CRD 1-8, 1-17

## D

DIC、CMYK シミュレーションプロ  
ファイル 1-3

## E

EFI Spectrometer A-1

キャリブレーション 2-9

設定 A-1

測定値のインポート 3-27

EFIRGB、RGB ソースプロファイル 1-6

EFI 社製測色計 ( EFI Spectrometer )

設定 A-1

測定値のインポート 3-27

Euroscale、CMYK シミュレーションプ  
ロファイル 1-3

## G

GA 機能 3-18

## I

ICC プロファイル

レンダリング方法 1-8

## J

Japan Color、CMYK シミュレーション  
プロファイル 1-3

## M

Mac OS 用

プリンタドライバ 1-16

Macintosh コンピュータ用ケーブル  
A-3, A-7

## P

PANTONE Coated カラー参照 1-11

PostScript 1-3

PostScript カラーマッチング オプショ  
ン、PostScript プリンタドライバ 1-17

PostScript プリンタドライバ

Mac OS 用 1-16

ColorSync カラーマッチング オ  
プション 1-16

PostScript カラーマッチング オ

- ブション 1-17
- カラー / グレースケール オプション 1-16
  - Windows 9x/Me/NT40 用 1-14
- PostScript プリンタ記述ファイル 1-13
- PostScript レベル 2 以降
  - プリンタドライバ 1-14, 1-16
- PPD 1-13, 1-14, 1-16
- Profile Manager 3-10
  - カスタム名関連づけ 3-16
  - デフォルト設定 3-10
  - プロファイルの削除 3-15
  - プロファイルのダウンロード 3-13
  - プロファイルのバックアップ 3-15
  - プロファイルの編集 3-14
- R
- RGB 色分解 1-7
- RGB 色度座標、RGB ソースプロファイル 1-6
- RGB ソースプロファイル 1-3, 1-5, 3-10
  - Apple 標準 1-6
  - EFIRGB 1-6
  - RGB 色度座標 1-6
  - sRGB ( PC ) 1-6
  - カスタム 1-6
  - ガンマ 1-6
  - ソース 1-6
  - 白色点 1-6
- S
- Spot-On
  - ColorWise Pro Tools 3-18
- sRGB ( PC )、RGB ソースプロファイル 1-6
- SWOP-Coated、CMYK シミュレーションプロファイル 1-3
- T
- TOYO-Coated、CMYK シミュレーションプロファイル 1-4
- U
- UCR ( Under Color Removal ) 1-6
- X
- X-Rite DTP32
  - 設定 A-2
  - 調整 A-5
- X-Rite DTP41 A-6
  - 設定 A-6
  - 調整 A-8
- あ
- 明るさ 1-7
- 鮮やかさ、ICC レンダリング方法 1-9
- い
- イメージ、ICC レンダリング方法 1-8
- 色空間 1-2
- 色の範囲 1-8
- 色分解の組合せ 1-8
- か
- カスタムマスターシミュレーション 3-2
- カスタムモード、出力プロファイル 3-3
- カスタムリンクシミュレーション 3-2
- カスタム、RGB ソースプロファイル 1-6
- カスタム比較ページ 2-7, 3-9
- カラー
  - 出力カラーの制御 B-1
- カラー / グレースケール オプション
  - PostScript プリンタドライバ 1-16
- カラー管理プリントオプション 1-14, 1-16
- カラー参照ファイル 2-4
- カラーの表現 1-3, 1-8
- カラーの表現 オプション 1-8
  - 用途 1-9
- カラーのレンダリング方法 1-8
- カラー表 2-4
- ガンマ、RGB ソースプロファイル 1-6
- き
- キャリブレーション
  - COM1 または COM2 A-3, A-7
  - 概要 2-1

- キャリブレーションセット 2-3
- 出力プロファイル 2-3
- 状況の確認 2-4
- スケジュール 2-3
- 測定 2-1, 2-3
- ターゲット 2-1
- 動作原理 2-2
- 分光測色計 A-6
- キャリブレーションセット 2-3
- く
- クイック、CMYK シミュレーション方法 1-5, 3-2
- グラフィック、ICC レンダリング方法 1-9
- こ
- コントラスト、ICC レンダリング方法 1-8
- し
- シミュレーションプロファイル
- クイックモード
- 編集 3-7
- フルモード
- 編集 3-7
- マスターモード 3-2, 3-3
- 編集 3-3
- 出力プロファイル 1-10, 2-3, 3-10
- カスタムモード 3-3
- 編集 3-3
- 濃度モード 3-3
- す
- スポットカラーマッチング 1-11
- せ
- 絶対カラーメトリック、ICC レンダリング方法 1-9
- 絶対カラーメトリック、カラーの表現 1-9
- 設定情報ページ 2-4
- そ
- 相対カラーメトリック、ICC レンダリング方法 1-9
- 相対カラーメトリック、カラーの表現 1-9
- 双方向通信 1-4, 1-6, 1-10
- ソース、RGB ソースプロファイル 1-6
- 測色計
- EFI Spectrometer A-1
- 測定ファイル 2-3
- た
- ターゲット曲線 2-3
- て
- テキストと画像に純ブラック使用 1-11
- テストページ 2-4
- デフォルトカラー管理設定、ColorWise Pro Tools 3-10
- と
- トランスファ関数 2-3
- の
- 濃度計 A-2
- X-Rite DTP32 A-5
- X-Rite DTP41 A-8
- キャリブレーション 2-13, A-5
- 濃度パッチ 2-4
- 濃度モード、出力プロファイル 3-3
- は
- 白色点、RGB ソースプロファイル 1-6
- パッチページ、キャリブレーション用 2-3
- ひ
- 比較ページ
- カスタム 2-7, 3-9
- キャリブレーションテスト用 2-7, 3-9
- ビジネスグラフィック、カラーの表現 1-9
- ふ
- ブラックのテキスト 1-11
- プリンタドライバ
- PostScript プリンタドライバ
- Mac OS 用 1-16
- Windows 9x/Me/NT40 用 1-14

- PostScript レベル 2 以降 1-14, 1-16
- 双方向通信 1-4, 1-6, 1-10
- プリント範囲外の RGB カラー、出力  
1-8
- フル (ソース GCR) CMYK シミュ  
レーション方法 1-5, 3-2
- フル (出力 GCR) CMYK シミュレ  
ーション方法 1-5, 3-2
- プレゼンテーション資料用印刷ジョブ  
1-9
- プロファイルの削除 3-15
- プロファイルのダウンロード 3-13
- プロファイルのバックアップ 3-15
- プロファイルの編集
  - Color Editor 3-2
  - Profile Manager 3-14
  - カスタムモード出力プロファイル  
3-3
  - クイックモードシミュレーション  
プロファイル 3-7
  - 復帰 3-9
  - フルモードシミュレーションプロ  
ファイル 3-7
  - マスターモードシミュレーション  
プロファイル 3-3
- プロファイル、カスタム名関連づけ  
3-16
- 分光測色計 A-6
  - EFI Spectrometer A-1
  - X-Rite DTP41 A-6
  - キャリブレーション 2-15
- ま
- マスターシミュレーション 3-2
- マスターモード、シミュレーションプ  
ロファイル 3-2
- 丸型 8 ピンミニコネクタ A-3, A-7
- り
- リンクシミュレーション 3-2
- れ
- 連続調、カラーの表現 1-8
- レンダリング方法 1-8